

## 第 2 章 集計結果



## 第2章 集計結果

### 1 水の使用状況について

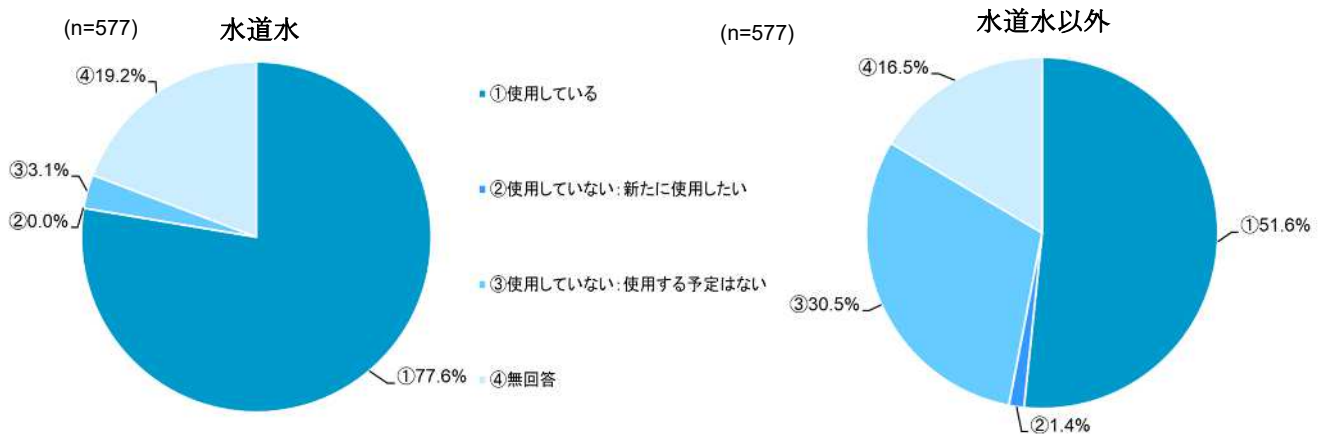
#### (1) 水道水等の使用状況及び今後の動向

【問1】あなたの事業所では、水道水や水道水以外の水（地下水、再生水等）を使用していますか。（それぞれ1つだけ選び、○をつけてください）

1. 水道水 2. 水道水以外（地下水、再生水等）

- ・使用している
- ・使用していない（新たに使用したい）
- ・使用していない（使用する予定はない）

#### ① 単純集計・属性別集計

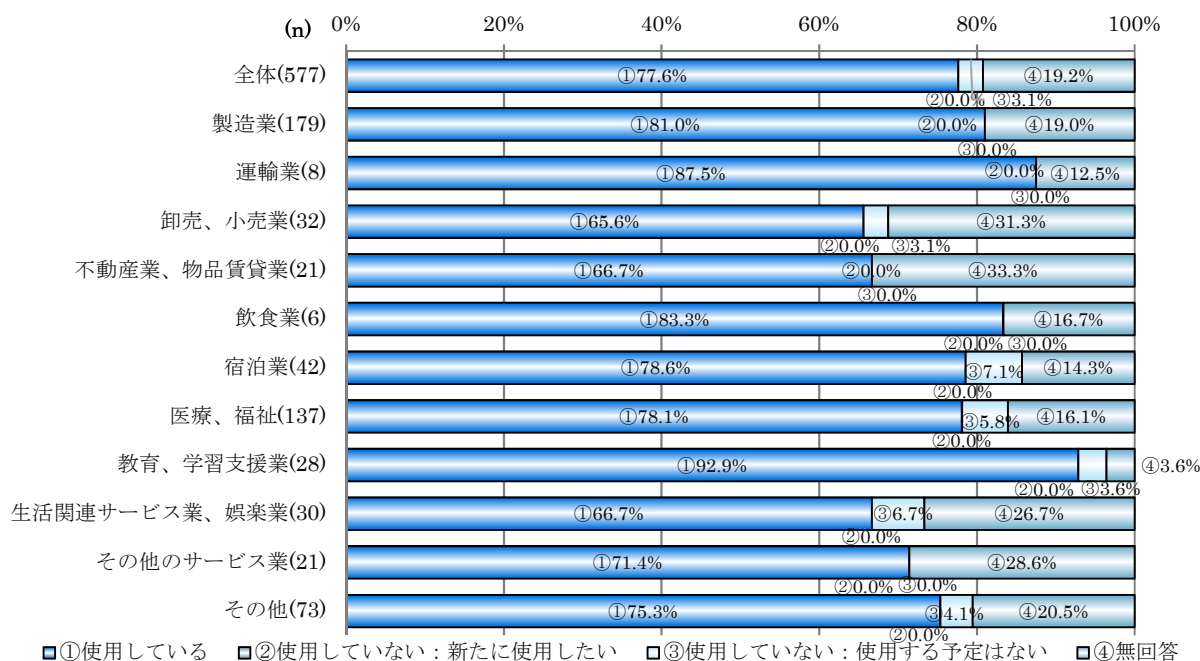


図表4 水道水等の使用状況【単数回答】

「水道水」は、「使用している」の割合が77.6%、「使用していない：使用する予定はない」の割合は3.1%となった。

また「水道水以外（地下水、再生水等）」では、「使用している」の割合が51.6%、「使用していない：使用する予定はない」の割合は30.5%となった。

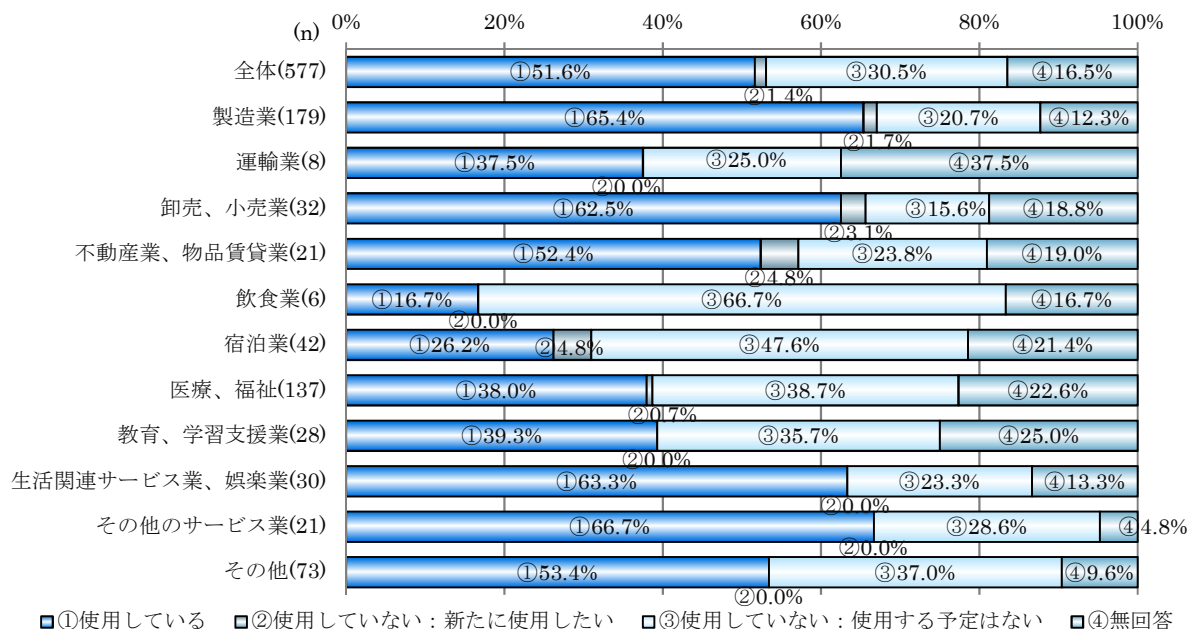
図表5 水道水等の使用状況【水道水：業種別】



図表5 水道水等の使用状況【水道水：業種別】

業種別にみると、水道水を使用している割合が高いのは、「製造業」(81.0%)「宿泊業」(78.6%)「医療、福祉」(78.1%)などである。

一方で、割合が低いのは「卸売、小売業」(65.6%)「生活関連サービス業、娯楽業」(66.7%)などである。

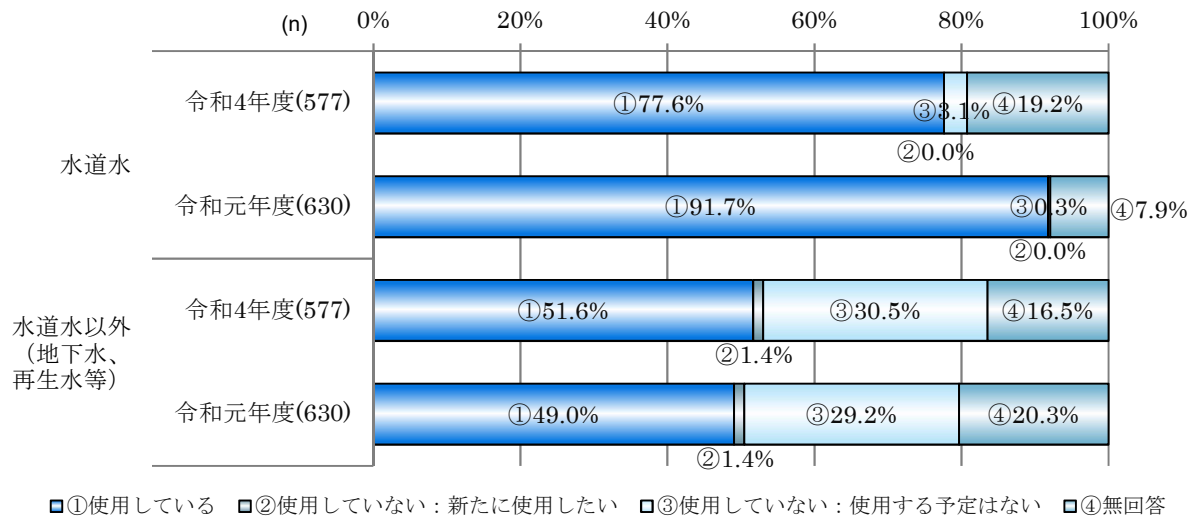


図表6 水道水等の使用状況【水道水以外：業種別】

業種別にみると、水道水以外を使用している割合が高いのは、「製造業」(65.4%)「卸売、小売業」(62.5%)「生活関連サービス業、娯楽業」(63.3%)などである。

一方で、水道水以外を使用している割合が低いのは「宿泊業」(26.2%)「医療、福祉」(38.0%)などである。

② 経年比較



図表7 水道水等の使用状況【経年比較】

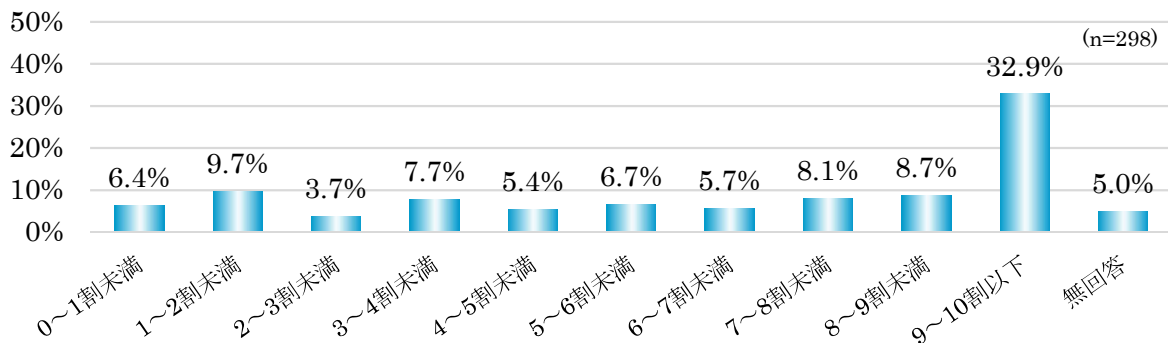
「水道水」を使用している割合は、令和元年度から令和4年度で、14.1ポイント減少した。一方、「水道水以外（地下水、再生水等）」を使用している割合は、令和元年度から令和4年度で、2.6ポイント増加した。

図表8 水道水以外の使用割合【数値回答をカテゴリ化】

(2) 水道水以外の使用割合

【問1-1】この1年間の全使用水量のうち、水道水以外の使用水量は全体の何割くらいですか。(数字を記入してください)

① 単純集計・属性別集計



図表8 水道水以外の使用割合【数値回答をカテゴリ化】

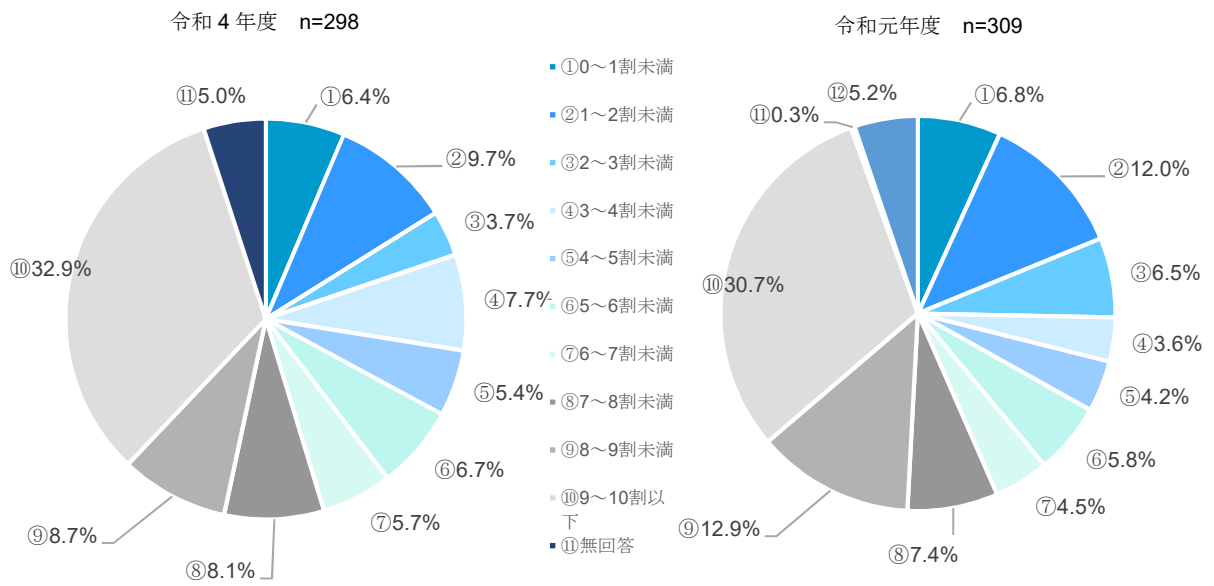
1年間の全使用水量に占める水道水以外の使用水量は、「9~10割以下」が32.9%と最も高い。

	全体	0~1割未満	1~2割未満	2~3割未満	3~4割未満	4~5割未満	5~6割未満	6~7割未満	7~8割未満	8~9割未満	9~10割以下	無回答	平均
全体	298 100.0%	19 6.4%	29 9.7%	11 3.7%	23 7.7%	16 5.4%	20 6.7%	17 5.7%	24 8.1%	26 8.7%	98 32.9%	15 5.0%	5.9
製造業	117 100.0%	5 4.3%	9 7.7%	2 1.7%	7 6.0%	6 5.1%	12 10.3%	9 7.7%	18 15.4%	12 10.3%	35 29.9%	2 1.7%	6.3
運輸業	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	4.7
卸売、小売業	20 100.0%	2 10.0%	3 15.0%	0 0.0%	3 15.0%	1 5.0%	0 0.0%	2 10.0%	0 0.0%	1 5.0%	8 40.0%	0 0.0%	5.5
不動産業、物品賃貸業	11 100.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	5 45.5%	0 0.0%	6.6
飲食業	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0.1
宿泊業	11 100.0%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 36.4%	1 9.1%	5.2
医療、福祉	52 100.0%	4 7.7%	4 7.7%	3 5.8%	4 7.7%	2 3.8%	3 5.8%	3 5.8%	2 3.8%	3 5.8%	20 38.5%	4 7.7%	6.0
教育、学習支援業	11 100.0%	0 0.0%	3 27.3%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%	4.4
生活関連サービス業、娯楽業	19 100.0%	0 0.0%	1 5.3%	1 5.3%	0 0.0%	1 5.3%	0 0.0%	1 5.3%	0 0.0%	3 15.8%	8 42.1%	4 21.1%	7.3
その他のサービス業	14 100.0%	3 21.4%	2 14.3%	0 0.0%	2 14.3%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	4 28.6%	1 7.1%	4.4
その他	39 100.0%	3 7.7%	4 10.3%	2 5.1%	1 2.6%	4 10.3%	3 7.7%	2 5.1%	3 7.7%	3 7.7%	11 28.2%	3 7.7%	5.6

図表9 水道水以外の使用割合【業種別】

業種別にみると、「医療、福祉」での水道水以外の使用水量は、「9~10割以下」が38.5%と高い。

② 経年比較



図表10 水道水以外の使用割合【経年比較】

「9～10割以下」の割合は、令和元年度から令和4年度で、2.2ポイント増加した。

(3) 水道水以外を使用している理由

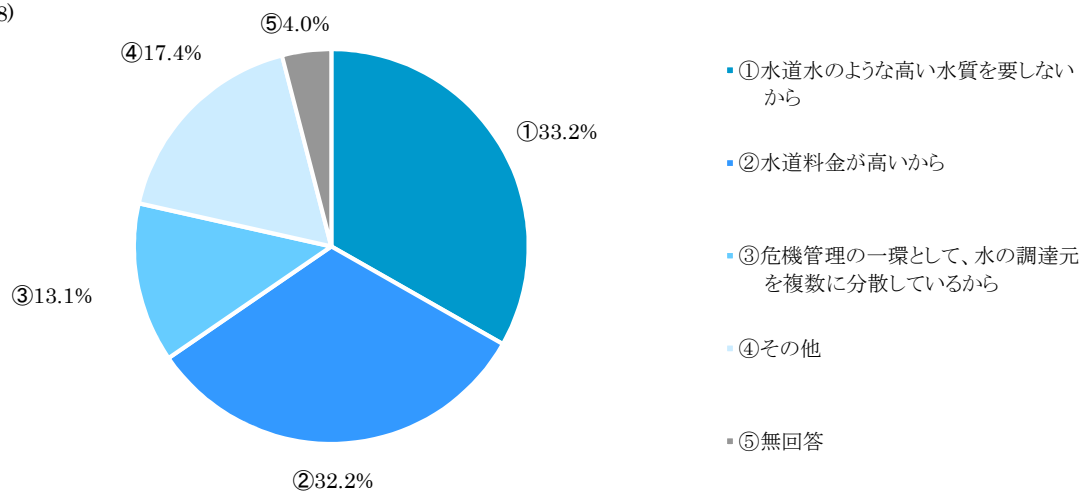
【問 1-2】 水道水以外の水を使用しているのはどうしてですか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

1. 水道水のような高い水質を要しないから
2. 水道料金が高いから
3. 危機管理の一環として、水の調達元を複数に分散しているから
4. その他

① 単純集計・属性別集計

(n=298)



図表11 水道水以外を使用している理由【単数回答】

「水道水のような高い水質を要しないから」が 33.2%、「水道料金が高いから」が 32.2%である。「危機管理の一環として、水の調達元を複数に分散しているから」という意見も 13.1%である。



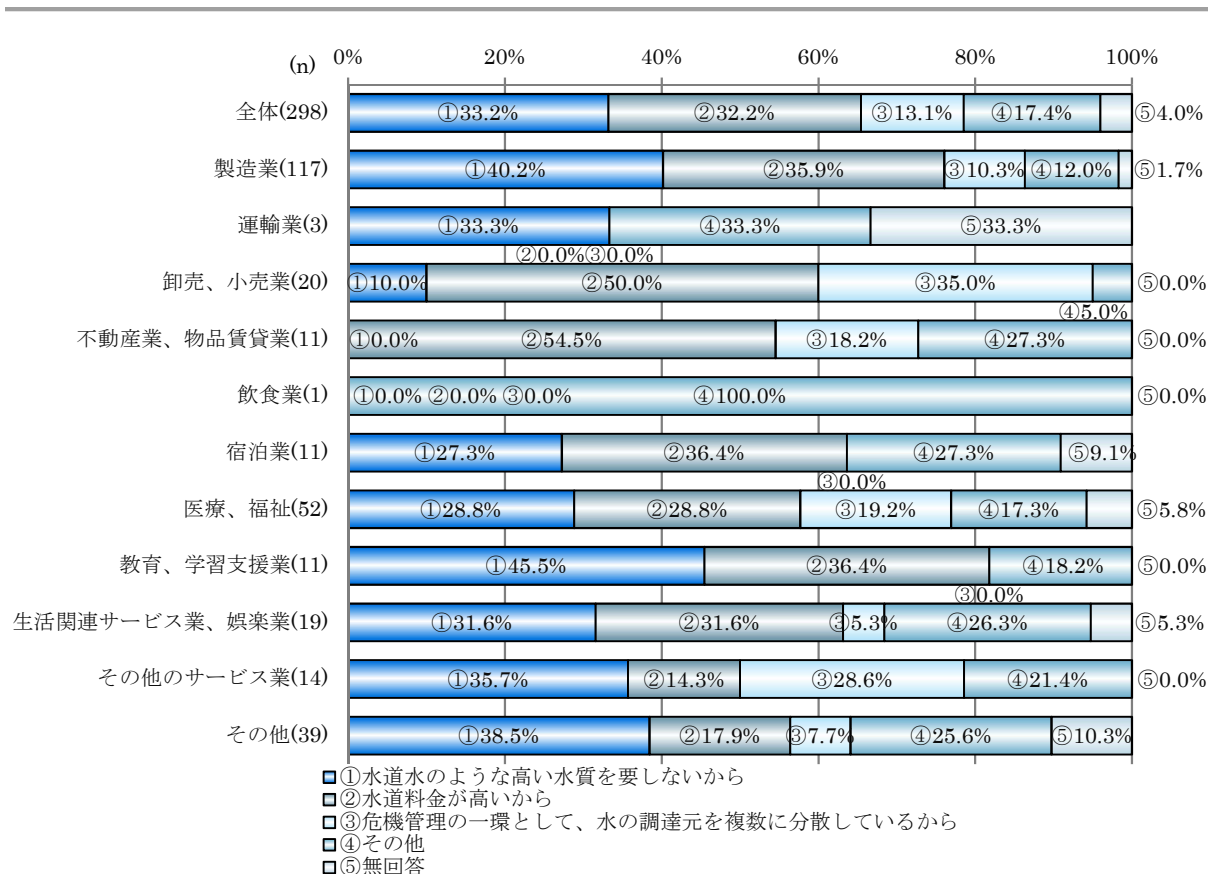
図表 12 水道水以外を使用している理由【所在地別】

		全体	水道水のような高い水質を要しないから	水道料金が高いから	危機管理の一環として、水の調達元を複数に分散しているから	その他	無回答
全体		298 100.0%	99 33.2%	96 32.2%	39 13.1%	52 17.4%	12 4.0%
相模 原 地 域	相模原市中央区	27 100.0%	11 40.7%	9 33.3%	5 18.5%	2 7.4%	0 0.0%
	相模原市南区	24 100.0%	4 16.7%	7 29.2%	5 20.8%	7 29.2%	1 4.2%
	相模原市緑区	18 100.0%	6 33.3%	6 33.3%	3 16.7%	1 5.6%	2 11.1%
三 浦 地 域	鎌倉市	12 100.0%	5 41.7%	3 25.0%	2 16.7%	2 16.7%	0 0.0%
	逗子市	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	葉山町	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
県 央 地 域	厚木市	36 100.0%	7 19.4%	15 41.7%	5 13.9%	8 22.2%	1 2.8%
	大和市	28 100.0%	8 28.6%	13 46.4%	2 7.1%	4 14.3%	1 3.6%
	海老名市	18 100.0%	1 5.6%	11 61.1%	0 0.0%	5 27.8%	1 5.6%
	綾瀬市	10 100.0%	3 30.0%	5 50.0%	1 10.0%	0 0.0%	1 10.0%
	愛川町	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
湘 南 地 域	平塚市	34 100.0%	19 55.9%	6 17.6%	3 8.8%	5 14.7%	1 2.9%
	藤沢市	34 100.0%	17 50.0%	5 14.7%	4 11.8%	6 17.6%	2 5.9%
	茅ヶ崎市	21 100.0%	8 38.1%	6 28.6%	2 9.5%	5 23.8%	0 0.0%
	伊勢原市	11 100.0%	3 27.3%	3 27.3%	3 27.3%	1 9.1%	1 9.1%
	寒川町	11 100.0%	5 45.5%	3 27.3%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%
	大磯町	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	二宮町	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
県 西 地 域	小田原市	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	箱根町	11 100.0%	2 18.2%	3 27.3%	1 9.1%	4 36.4%	1 9.1%

図表12 水道水以外を使用している理由【所在地別】

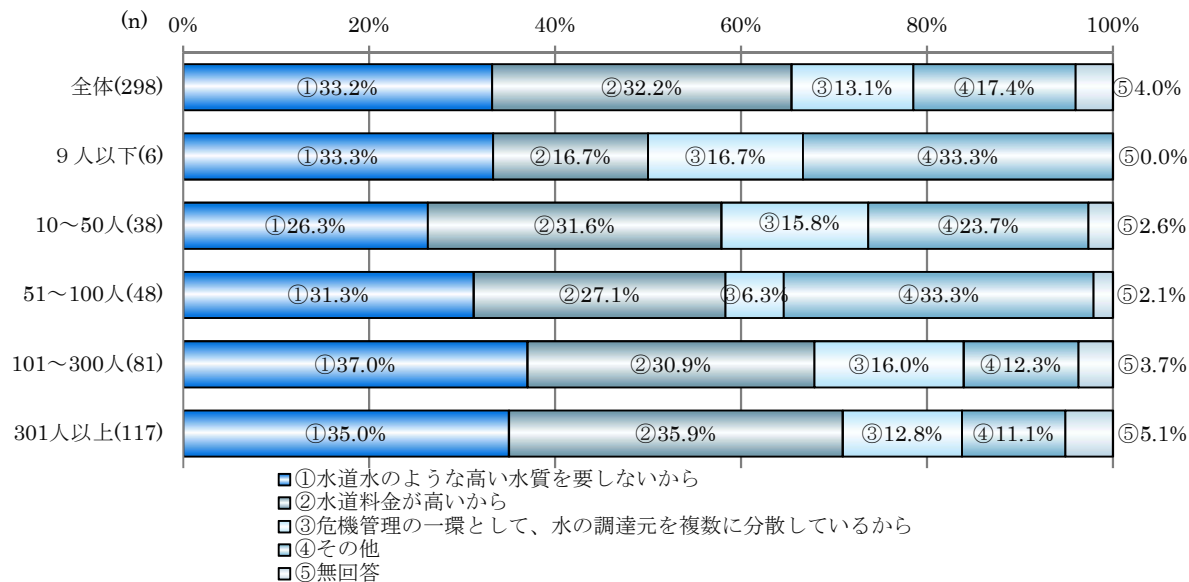
所在地別にみると、「水道水のような高い水質を要しないから」は平塚市（55.9%）、藤沢市（50.0%）で高い。「水道料金が低いから」は厚木市（41.7%）で高い。

図表 13 水道水以外を使用している理由【業種別】



図表13 水道水以外を使用している理由【業種別】

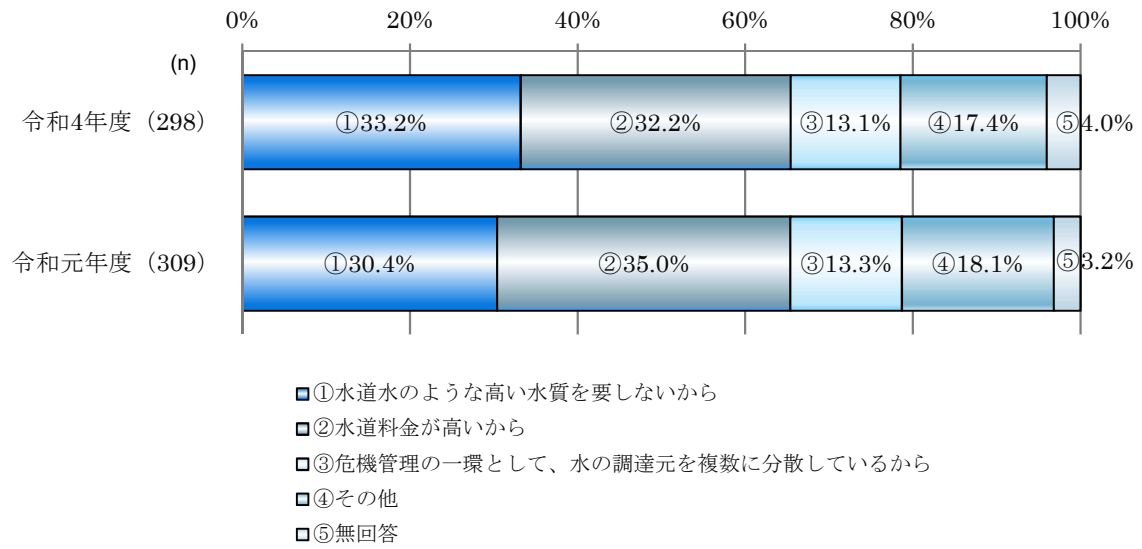
業種別にみると、「水道水のような高い水質を要しないから」は「製造業」(40.2%)で高い。



図表14 水道水以外を使用している理由【従業員数別】

従業員数別にみると、51人以上の規模の事業所では、「水道水のような高い水質を要しないから」の割合が3割以上となった。

② 経年比較



図表15 水道水以外を使用している理由【経年比較】

「水道水のような高い水質を要しないから」の割合は、令和元年度から令和4年度で、2.8ポイント増加した。

(4) 水を使用するにあたり一番考慮すること

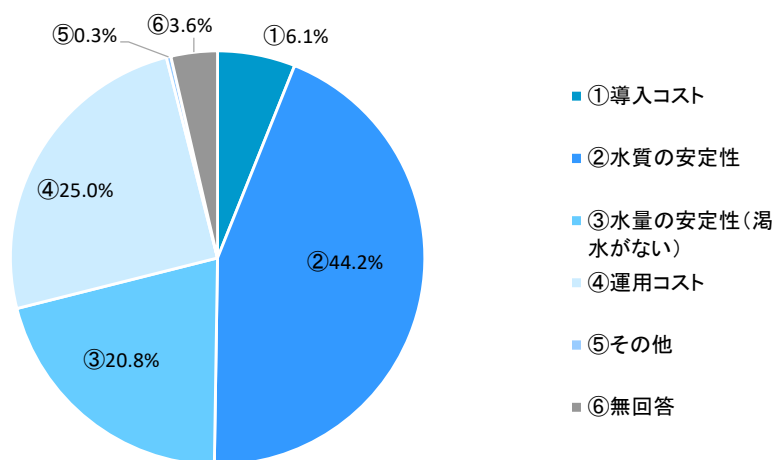
【問2】 水を使用するにあたり、一番考慮することは何ですか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

1. 導入コスト
2. 水質の安定性
3. 水量の安定性 (湧水がない)
4. 運用コスト
5. その他

① 単純集計・属性別集計

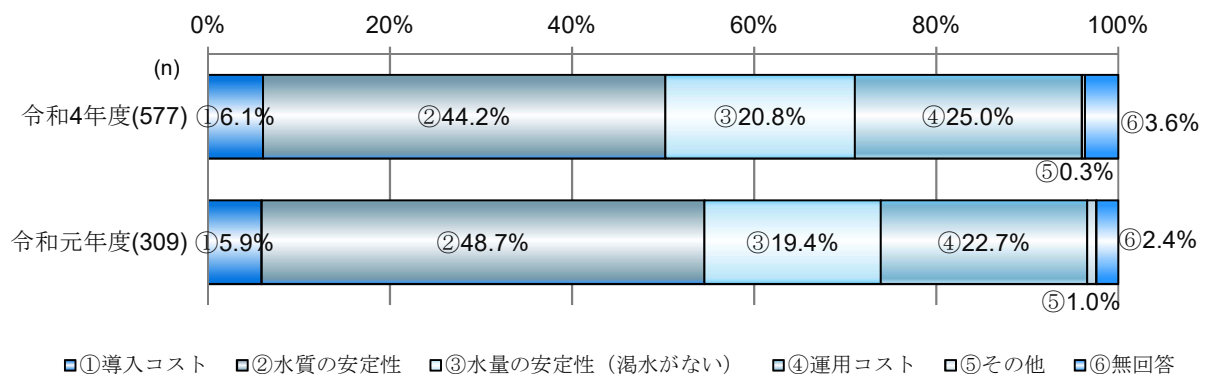
(n=577)



図表16 水使用で一番考慮すること【単数回答】

「水質の安定性」の割合が44.2%と最も高い。次いで「運用コスト」(25.0%)「水量の安定性(湧水がない)」(20.8%)と続く。

② 経年比較



図表17 水使用で一番考慮すること【経年比較】

「水質の安定性」は、令和元年度から令和4年度で、4.5ポイント減少した。

## 2 今後の水使用の見込み

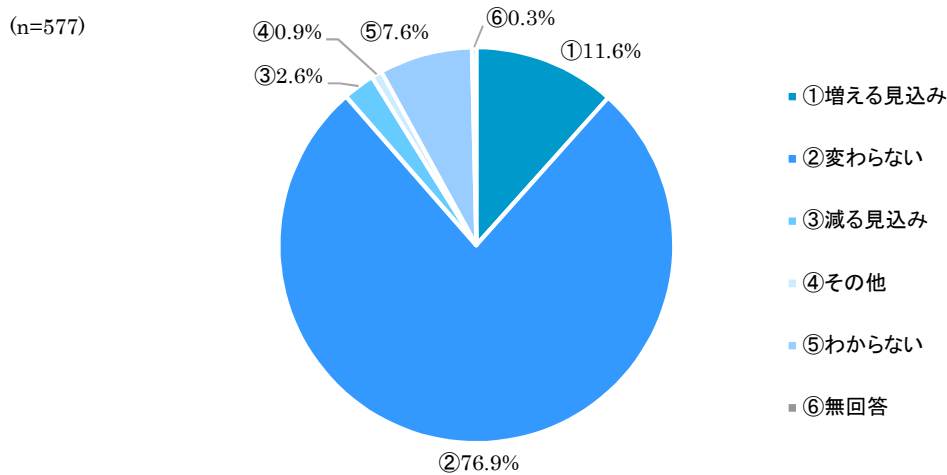
### (1) 今後の水道水の使用量

【問3】 今後、水道水の使用量の変化について、どのように見込んでいますか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

1. 増える見込み
2. 変わらない
3. 減る見込み
4. その他
5. わからない

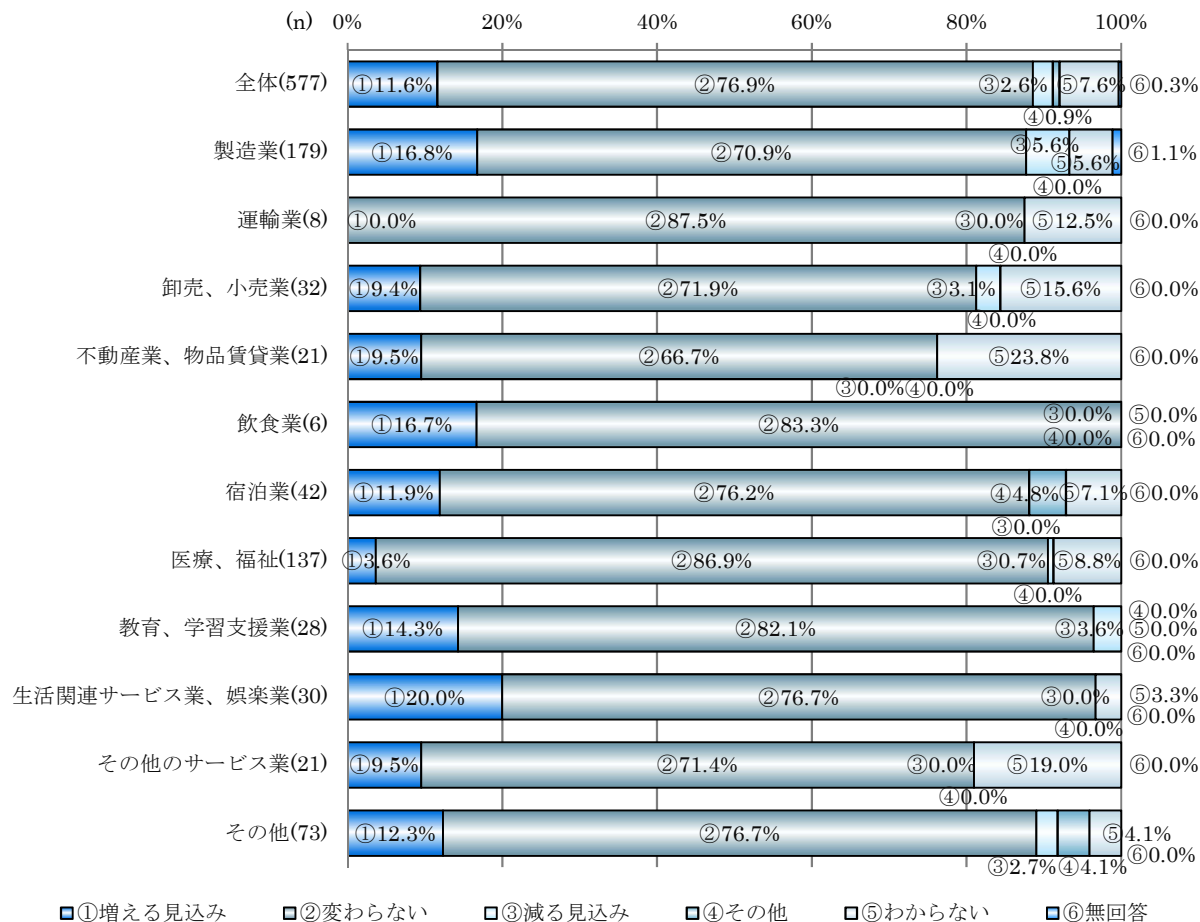
#### ① 単純集計・属性別集計



図表18 今後の水道水の使用量【単数回答】

全体の76.9%が「変わらない」と回答している。「増える見込み」は11.6%、「減る見込み」は2.6%である。

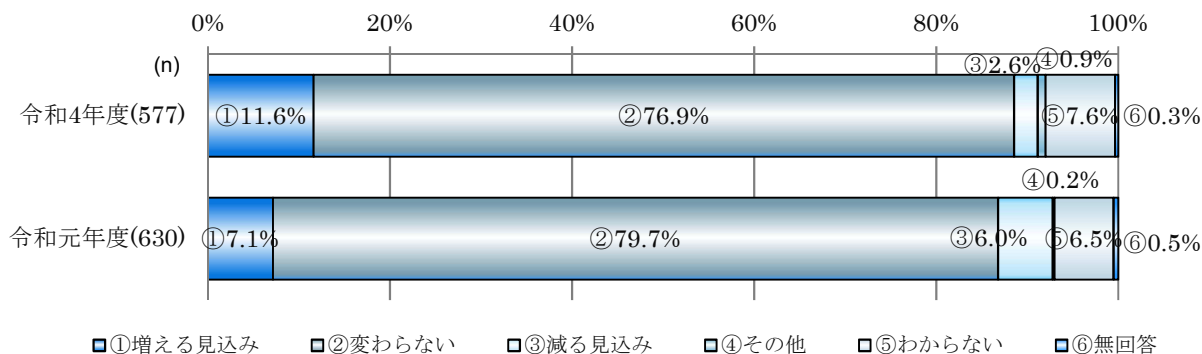
図表 19 今後の水道水の使用量【業種別】



図表19 今後の水道水の使用量【業種別】

業種別にみると、「製造業」(16.8%)「生活関連サービス業、娯楽業」(20.0%)などで「増える見込み」が高い。

② 経年比較



図表20 今後の水道水の使用量【経年比較】

「増える見込み」は、令和元年度から令和4年度で、4.5ポイント増加した。

図表 21 水道水使用量が増える見込みの理由【業種別】

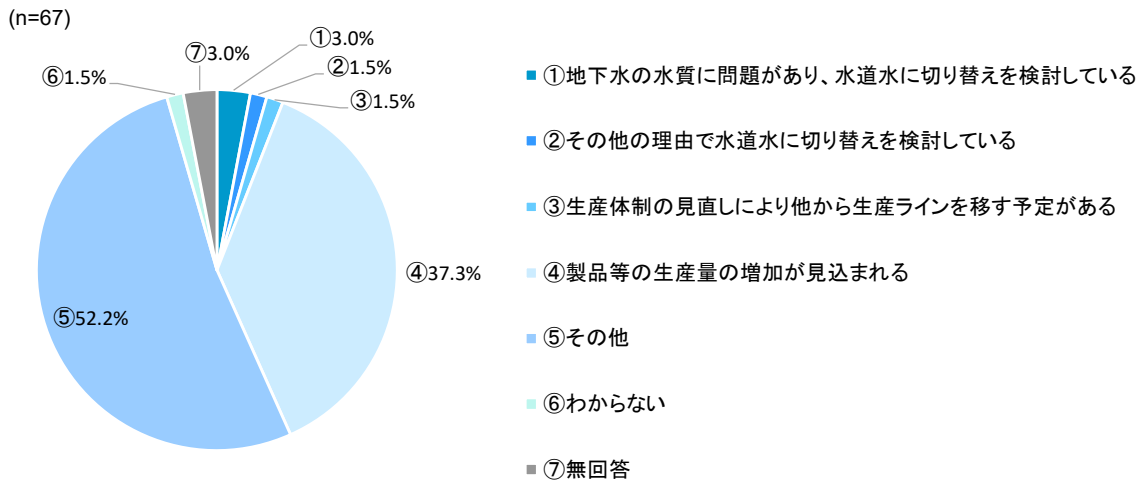
(2) 水道水使用量が増える見込みの理由

【問 3 - 1】 その理由についてあてはまるものはどれですか。

(1 つだけ選び、○をつけてください。)

1. 地下水の水質に問題があり、水道水に切り替えを検討している
2. その他の理由で水道水に切り替えを検討している
3. 生産体制の見直しにより他から生産ラインを移す予定がある
4. 製品等の生産量の増加が見込まれる
5. その他
6. わからない

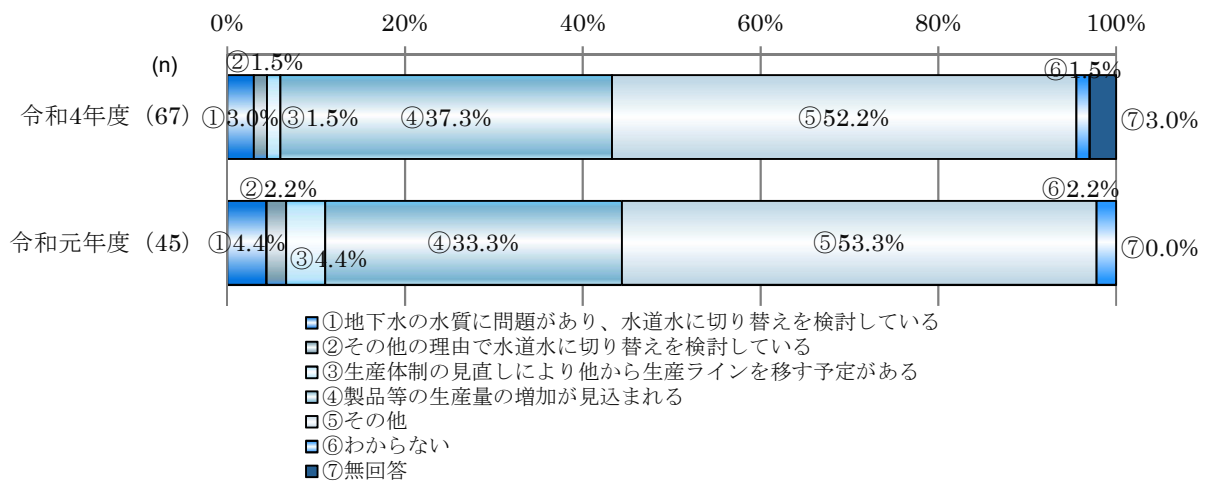
① 単純集計・属性別集計



図表21 水道水使用量が増える見込みの理由【業種別】

「製品等の生産量の増加が見込まれる」が最も高く 37.3%となった。

② 経年比較



図表22 水道水使用量が増える見込みの理由【経年比較】

「製品等の生産量の増加が見込まれる」は、令和元年度から令和4年度で、4ポイント増加した。

(3) 水道水使用量が減る見込みの理由

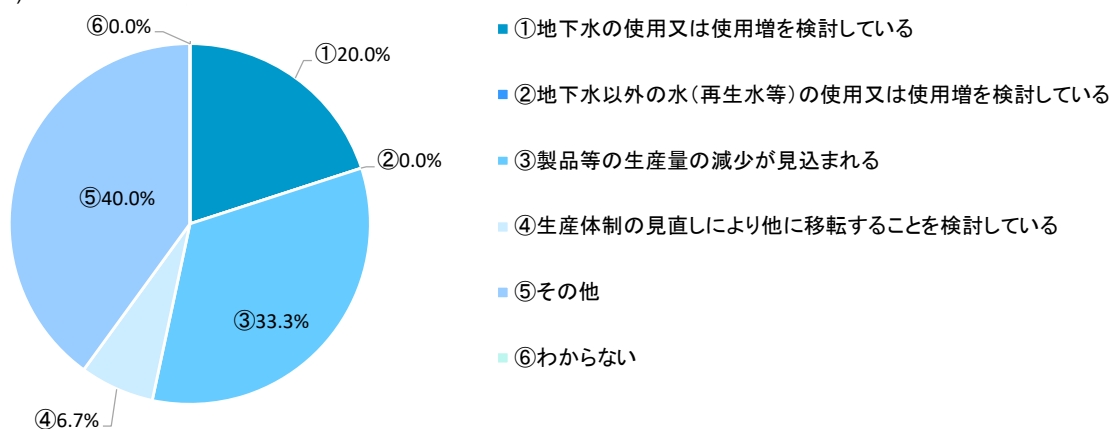
【問 3 - 2】その理由についてあてはまるものはどれですか。

(1つだけ選び、○をつけてください。)

1. 地下水の使用又は使用増を検討している
2. 地下水以外の水（再生水等）の使用又は使用増を検討している
3. 製品等の生産量の減少が見込まれる
4. 生産体制の見直しにより他に移転することを検討している
5. その他
6. わからない

① 単純集計・属性別集計

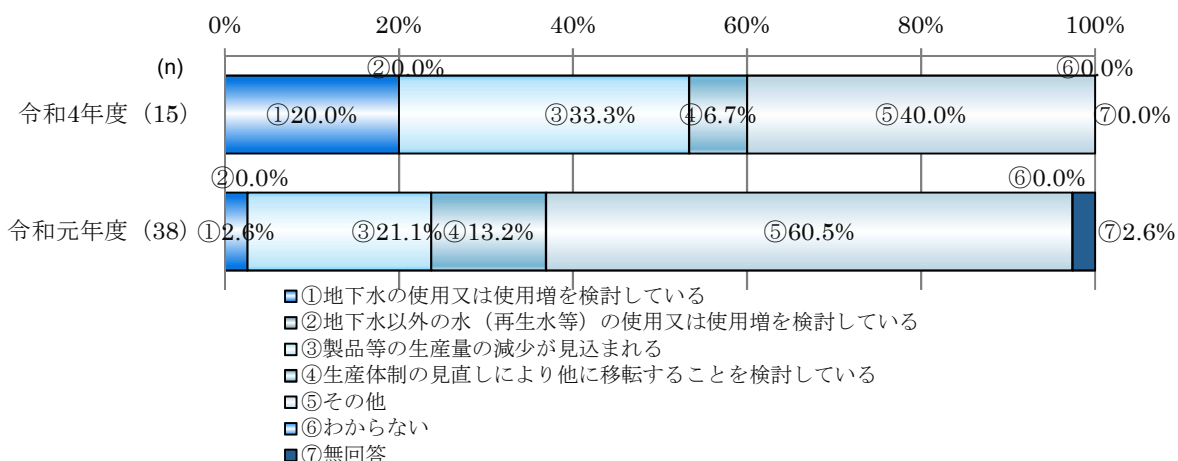
(n=15)



図表23 水道水使用量が減る見込みの理由【業種別】

「製品等の生産量の減少が見込まれる」の割合が最も高く 33.3%となった。

② 経年比較



図表24 水道水使用量が減る見込みの理由【経年比較】

「地下水の使用又は使用増を検討している」は、令和元年度から令和4年度で、17.4ポイント増えた。



### 3 県営水道の事業について

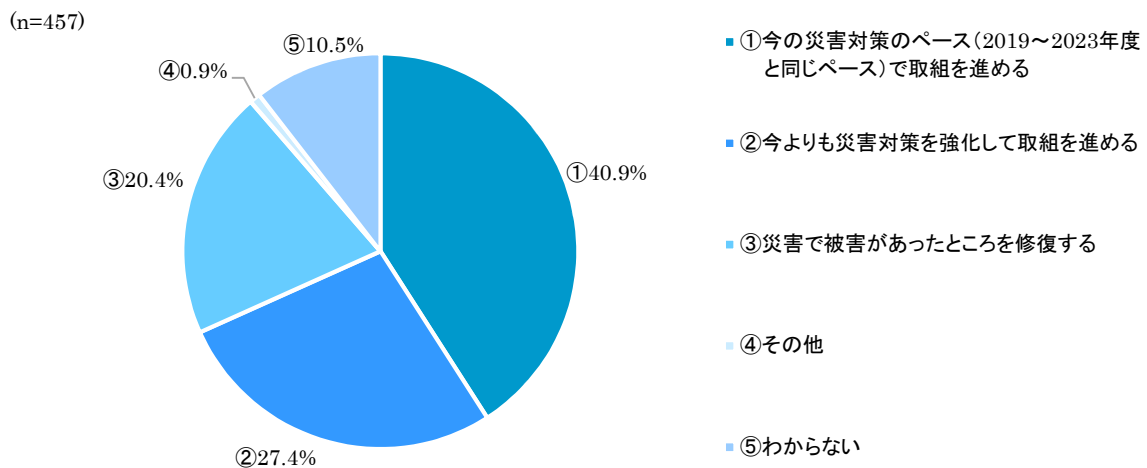
#### (1) 災害対策の進め方について

【問 4】災害対策についてお聞きします。あなたの事業所では、今後の災害対策の進め方についてどのように進めたらよいと思いますか。

(事業所としてのお考えに近いものを1つだけ選び、○をつけてください。)

1. 今の災害対策のペース（2019～2023年度と同じペース）で取組を進める
2. 今よりも災害対策を強化して取組を進める
3. 災害で被害があったところを修復する
4. その他
5. わからない

#### ① 単純集計・属性別集計



図表25 災害対策の進め方について【単数回答】

「今の災害対策のペース（2019～2023年度と同じペース）で取組を進める」が40.9%で最も高い。次いで「今よりも災害対策を強化して取組を進める」が27.4%、「災害で被害があったところを修復する」が20.4%で続く。

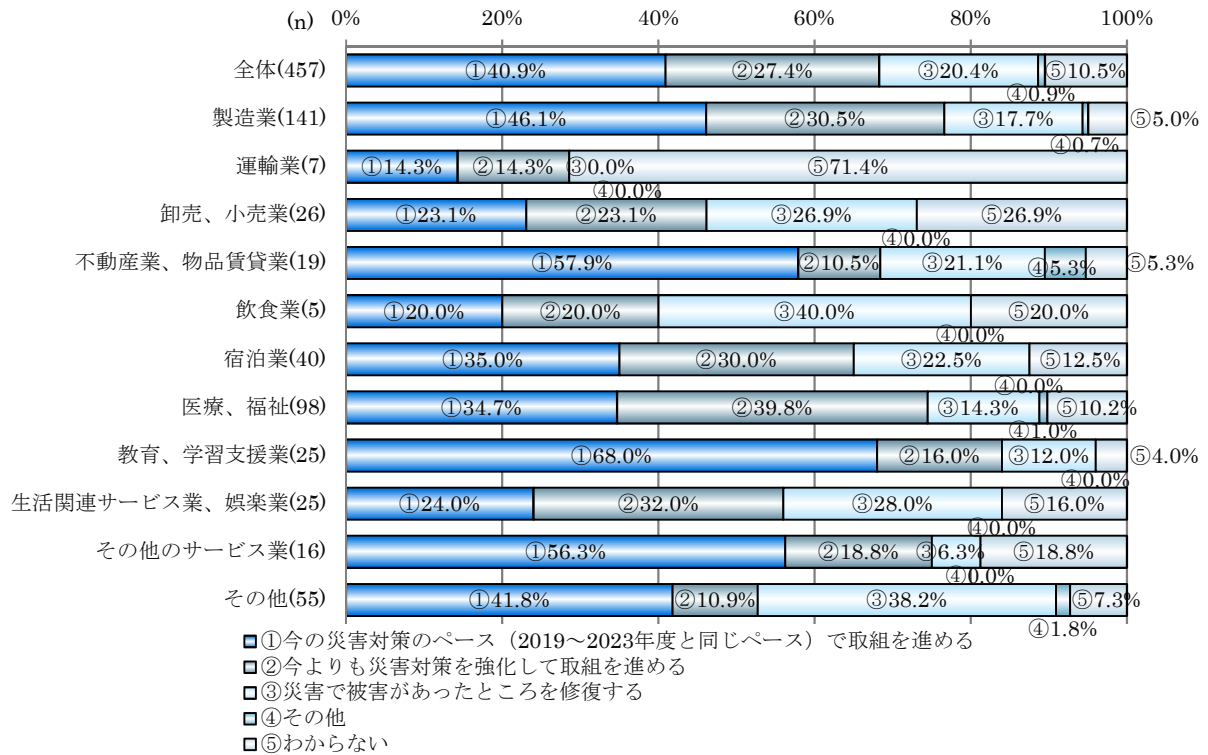
(設問の指示に誤りがあったため回答数が少なくなっています。)

図表 26 災害対策の進め方について【所在地別】

		全体	今の災害対策のペース (2019～2023年度と同じペース)で取組を進める	今よりも災害対策を強化して取組を進める	災害で被害があったところを修復する	その他	わからない
全体		457 100.0%	187 40.9%	125 27.4%	93 20.4%	4 0.9%	48 10.5%
相模原地域	相模原市中央区	37 100.0%	21 56.8%	7 18.9%	7 18.9%	0 0.0%	2 5.4%
	相模原市南区	32 100.0%	12 37.5%	9 28.1%	8 25.0%	0 0.0%	3 9.4%
	相模原市緑区	22 100.0%	9 40.9%	5 22.7%	5 22.7%	1 4.5%	2 9.1%
三浦横須賀地域	鎌倉市	30 100.0%	11 36.7%	9 30.0%	8 26.7%	0 0.0%	2 6.7%
	逗子市	3 100.0%	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%
	葉山町	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
県央地域	厚木市	50 100.0%	14 28.0%	20 40.0%	11 22.0%	1 2.0%	4 8.0%
	大和市	32 100.0%	10 31.3%	8 25.0%	6 18.8%	0 0.0%	8 25.0%
	海老名市	26 100.0%	12 46.2%	3 11.5%	6 23.1%	0 0.0%	5 19.2%
	綾瀬市	12 100.0%	5 41.7%	4 33.3%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%
	愛川町	5 100.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
湘南地域	平塚市	53 100.0%	25 47.2%	11 20.8%	13 24.5%	0 0.0%	4 7.5%
	藤沢市	64 100.0%	30 46.9%	17 26.6%	8 12.5%	1 1.6%	8 12.5%
	茅ヶ崎市	28 100.0%	13 46.4%	6 21.4%	6 21.4%	0 0.0%	3 10.7%
	伊勢原市	21 100.0%	5 23.8%	9 42.9%	3 14.3%	1 4.8%	3 14.3%
	寒川町	11 100.0%	4 36.4%	5 45.5%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%
	大磯町	2 100.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	二宮町	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
県西地域	小田原市	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	箱根町	26 100.0%	10 38.5%	8 30.8%	7 26.9%	0 0.0%	1 3.8%

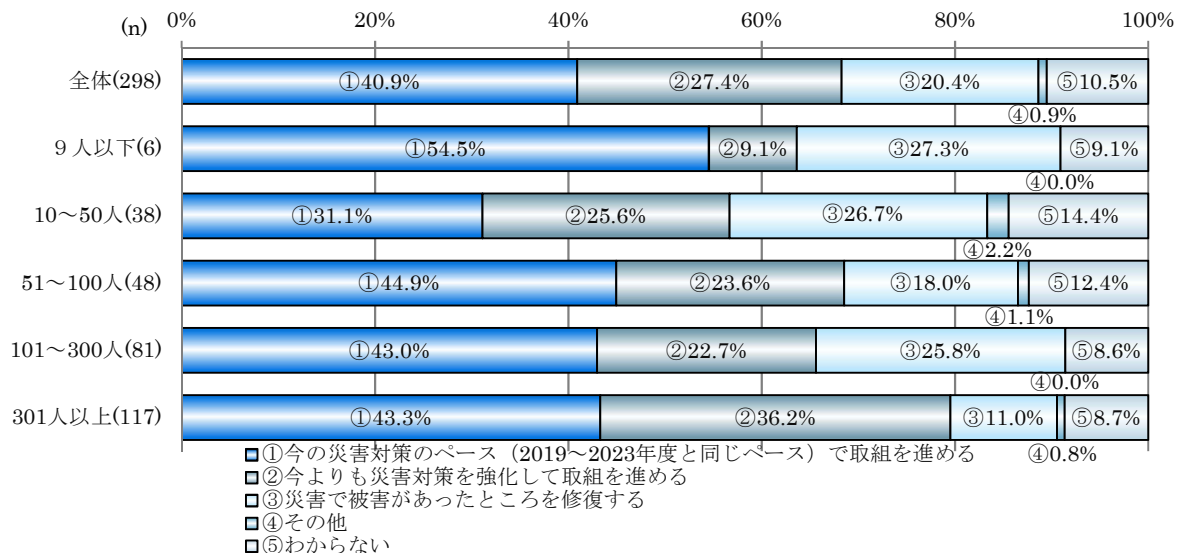
図表26 災害対策の進め方について【所在地別】

所在地別にみると、相模原市中央区（56.8%）、平塚市（47.2%）、藤沢市（46.9%）で「今の災害対策のペース（2019～2023年度と同じペース）で取組を進める」が高い。厚木市（40.0%）では「今よりも災害対策を強化して取組を進める」が高い。



図表27 災害対策の進め方について【業種別】

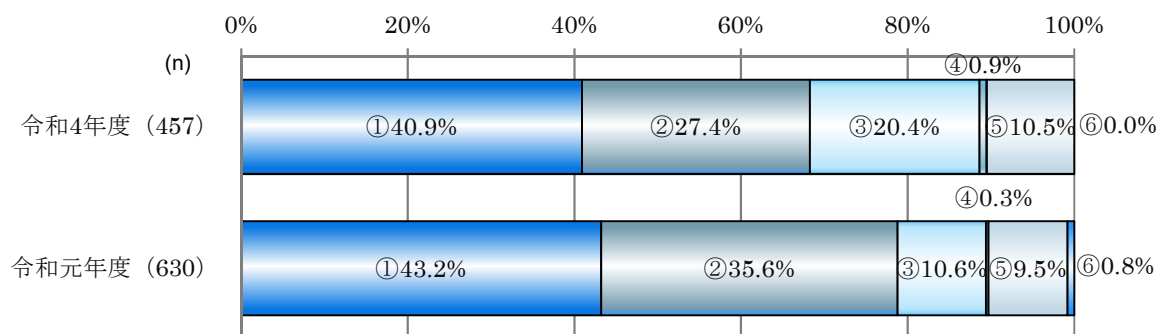
業種別にみると、「製造業」では「今の災害対策のペース（2019～2023年度と同じペース）で取組を進める」が46.1%と高い。「医療、福祉」では「今よりも災害対策を強化して取組を進める」が39.8%と高い。



図表28 災害対策の進め方について【従業員数別】

従業員数別にみると、51人以上の事業所では「今の災害対策のペース（2019～2023年度と同じペース）で取組を進める」が高くなる。301人以上の事業所では「今よりも災害対策を強化して取組を進める」も他の年代と比べ、高い傾向がみられる。

② 経年比較



- ①今の災害対策のペース（2019～2023年度と同じペース）で取組を進める
- ②今よりも災害対策を強化して取組を進める
- ③災害で被害があったところを修復する
- ④その他
- ⑤わからない
- ⑥無回答

図表29 災害対策の進め方について【経年比較】

「今よりも災害対策を強化して取組を進める」は、令和元年度から令和4年度で、8.2ポイント減少した。

一方、「災害で被害があったところを修復する」は9.8ポイント増加した。

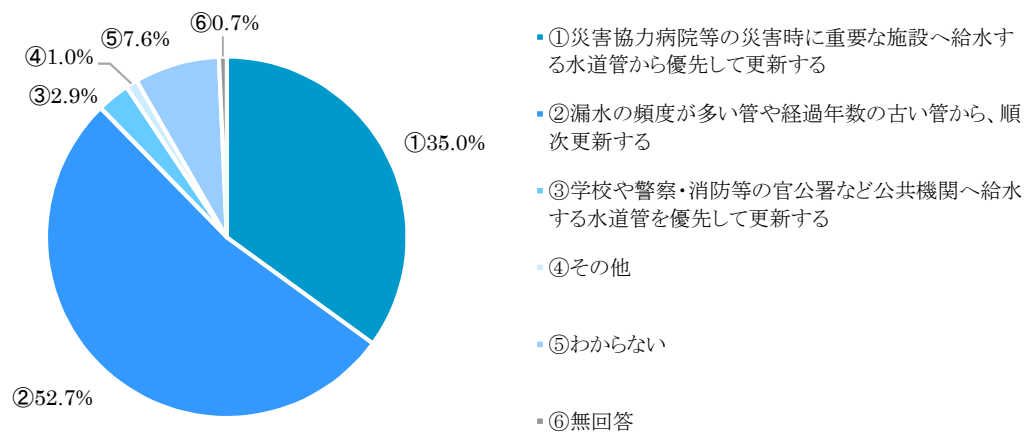
(2) 水道管の更新の取組について

【問5】 水道管の更新についてお聞きします。管路更新の優先順位についてどう思いますか。（事業所としてのお考えに近いものを1つだけ選び、○をつけてください。）

1. 災害協力病院等の災害時に重要な施設へ給水する水道管から優先して更新する
2. 漏水の頻度が多い管や経過年数の古い管から、順次更新する
3. 学校や警察・消防等の官公署など公共機関へ給水する水道管を優先して更新する
4. その他
5. わからない

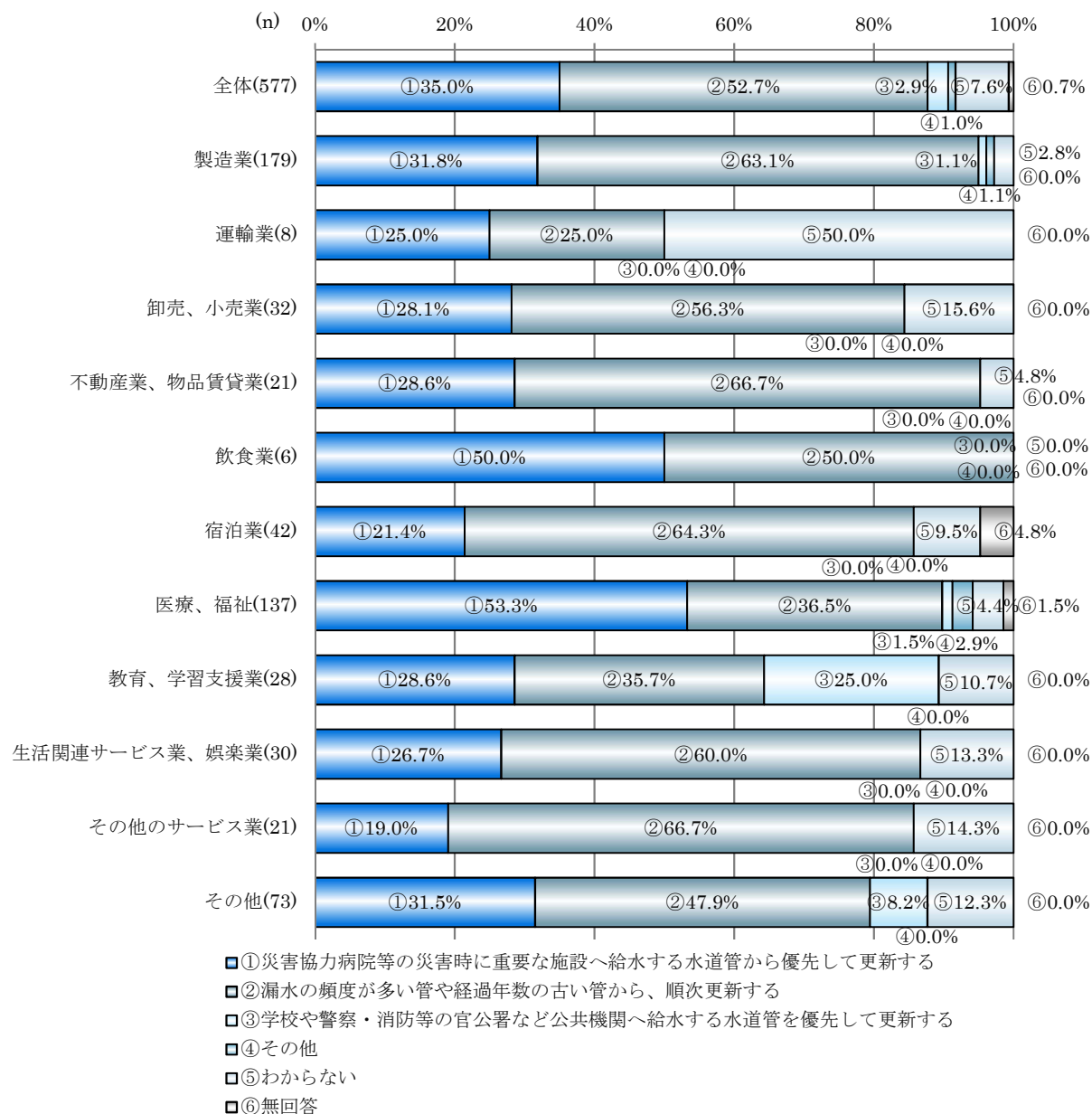
① 単純集計・属性別集計

(n=577)



図表30 管路更新の優先順位【単数回答】

「漏水の頻度が多い管や経過年数の古い管から、順次更新する」の割合が52.7%となる。次いで「災害協力病院等の災害時に重要な施設へ給水する水道管から優先して更新する」が35.0%、「学校や警察・消防等の官公署など公共機関へ給水する水道管を優先して更新する」が2.9%と続く。



図表31 管路更新の優先順位【業種別】

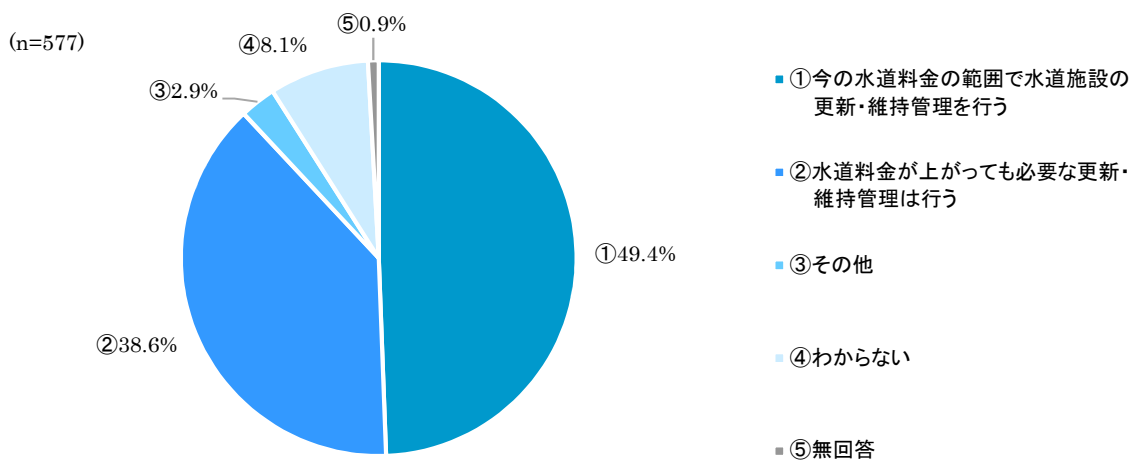
業種別にみると、「医療、福祉」では「災害協力病院等の災害時に重要な施設へ給水する水道管から優先して更新する」が53.3%と高い。「製造業」では「漏水の頻度が多い管や経過年数の古い管から、順次更新する」が63.1%と高い。

(3) 今後の水道施設の更新及び維持管理についての意識

【問 6】 これからの水道施設の更新及び維持管理に必要な水道料金についてお聞きします。  
今後の県営水道の水道施設の更新及び維持管理についてどう思いますか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

1. 今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う
2. 水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う
3. その他
4. わからない

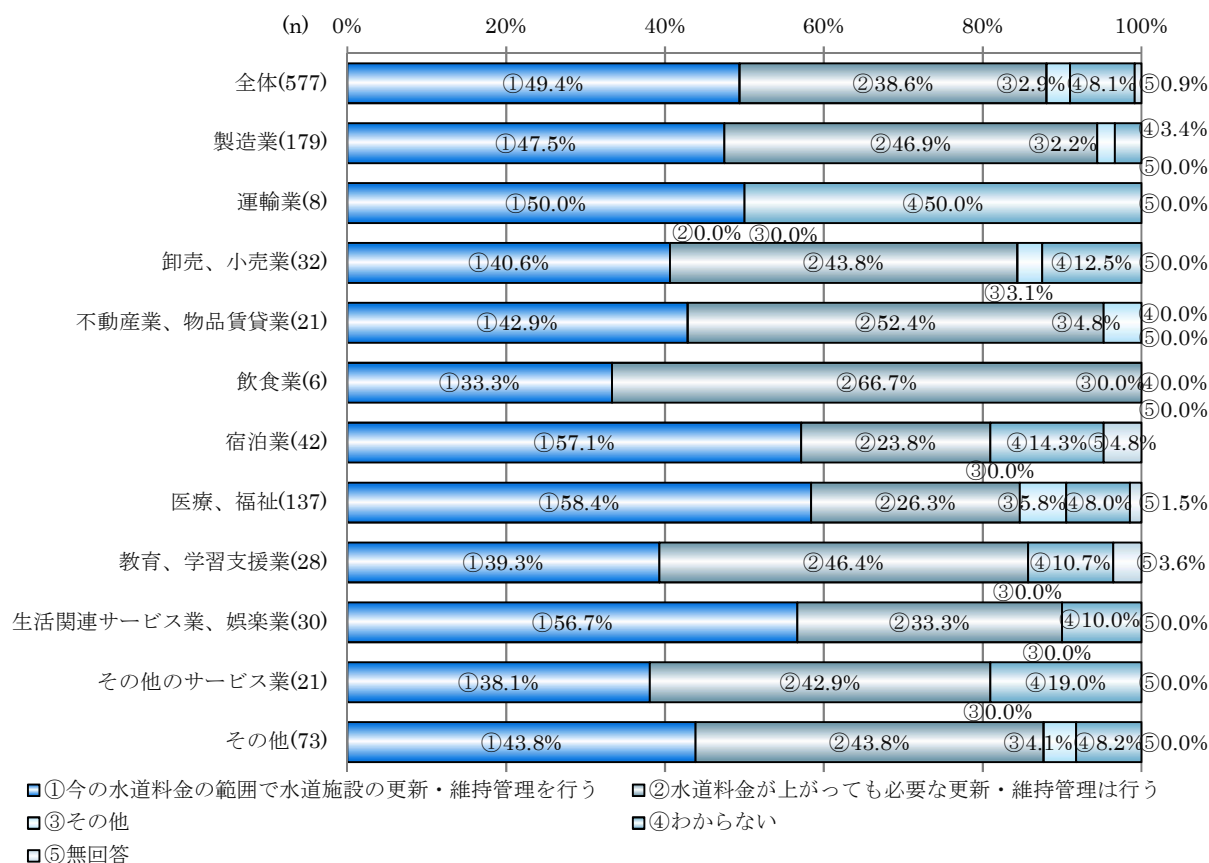
① 単純集計・属性別集計



図表32 更新・維持管理についての意識【単数回答】

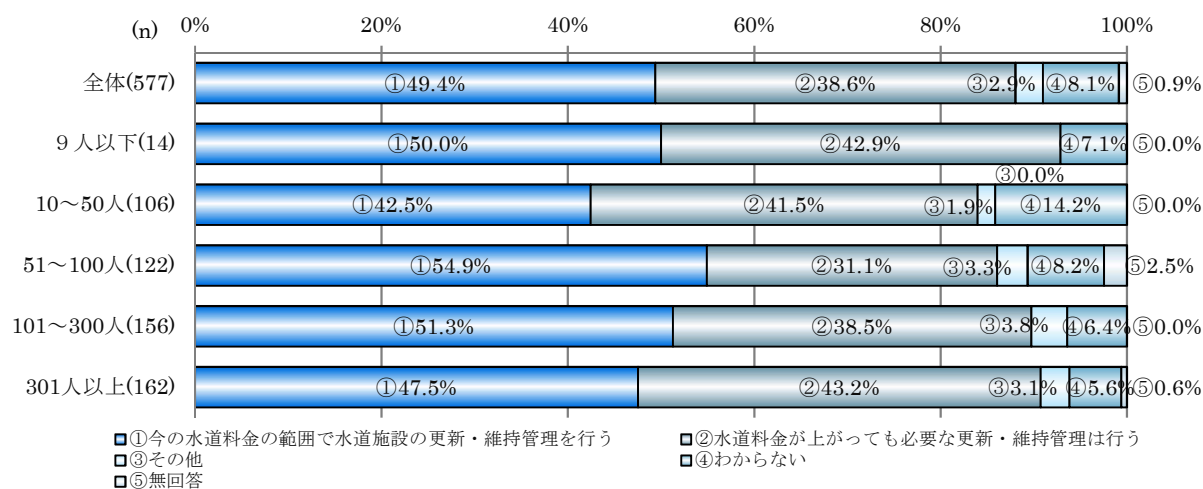
「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」が 49.4%である。次いで「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」は 38.6%となる。

図表 33 更新・維持管理についての意識【業種別】



図表33 更新・維持管理についての意識【業種別】

業種別にみると、「製造業」「卸売、小売業」では「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」が高い。「宿泊業」では「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」が高くなっている。

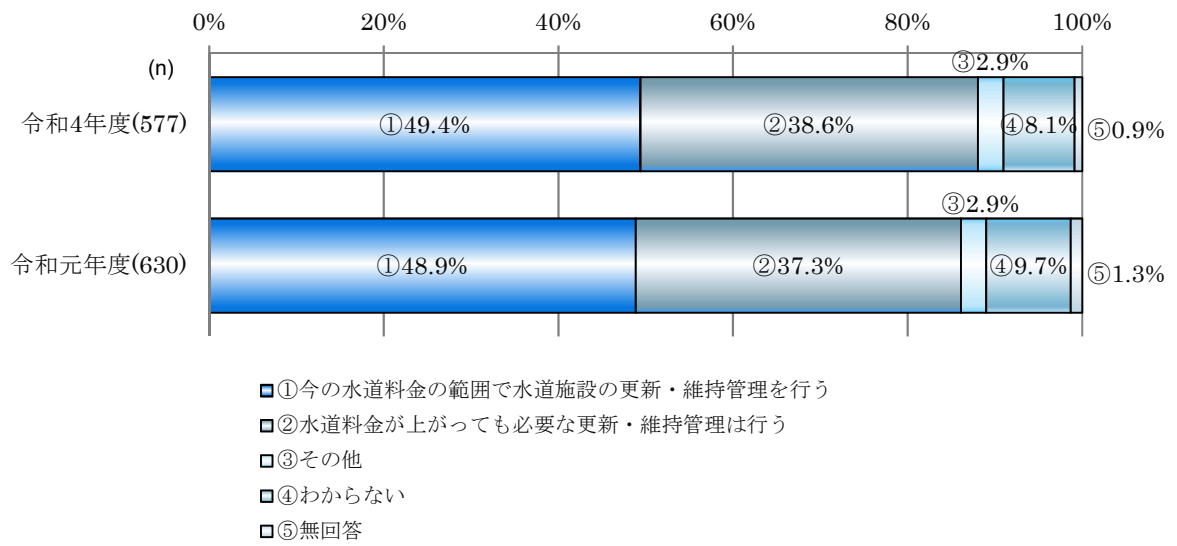


図表34 更新・維持管理についての意識【従業員数別】

従業員数別にみると、51～100人の事業所では「今の水道料金の範囲で水道施設の更新・維持管理を行う」が54.9%と高い。301人以上の事業所では「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」が43.2%と高くなっている。



② 経年比較



図表35 更新・維持管理についての意識【経年比較】

「水道料金が上がっても必要な更新・維持管理は行う」は、令和元年度から令和4年度で、1.3ポイント増加した。

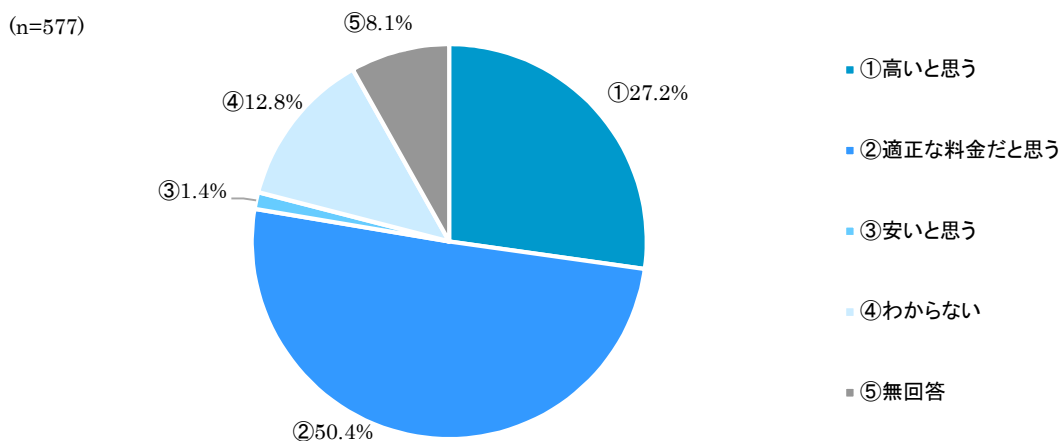
#### 4 県営水道の上水道料金について

##### (1) 上水道料金について

【問7】 現在お支払いいただいている上水道料金について、どう思いますか。  
(事業所としての考えに最も近いものを1つだけ選び、○をつけてください。)

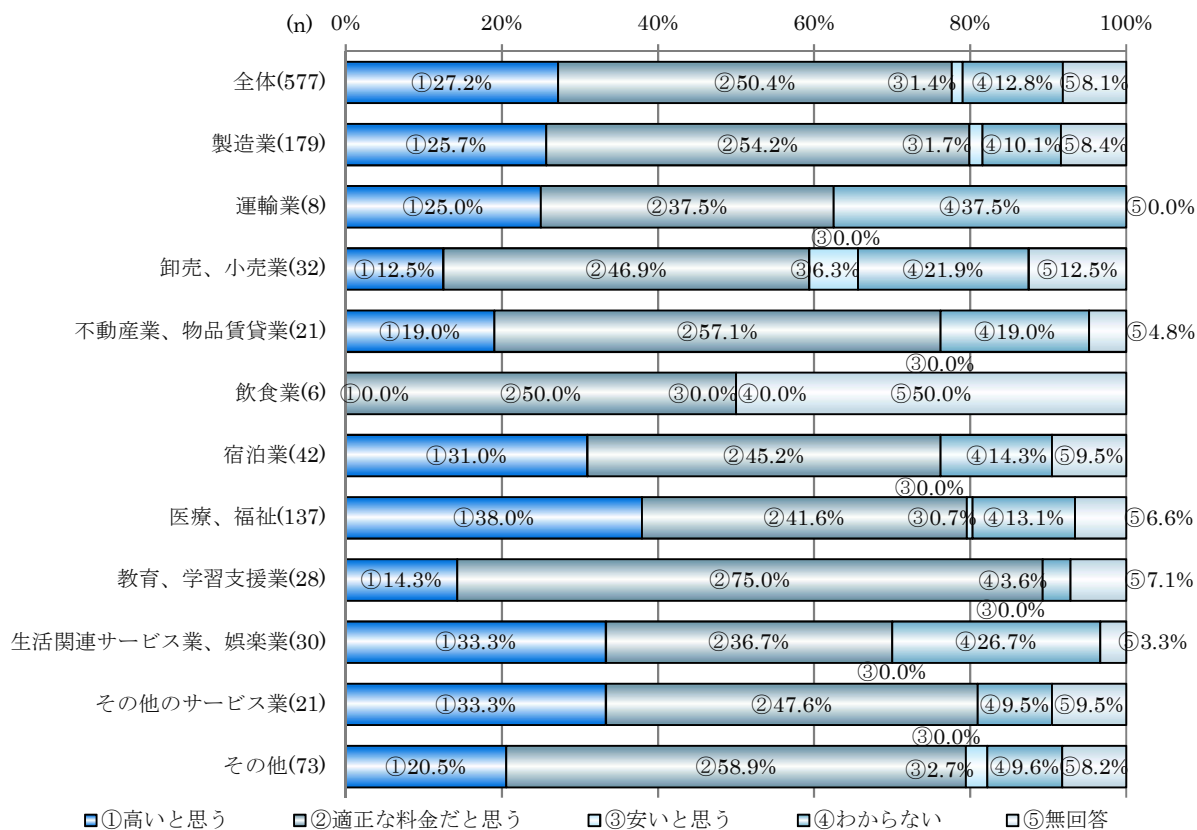
1. 高いと思う
2. 適正な料金だと思う
3. 安いと思う
4. わからない

##### ① 単純集計・属性別集計



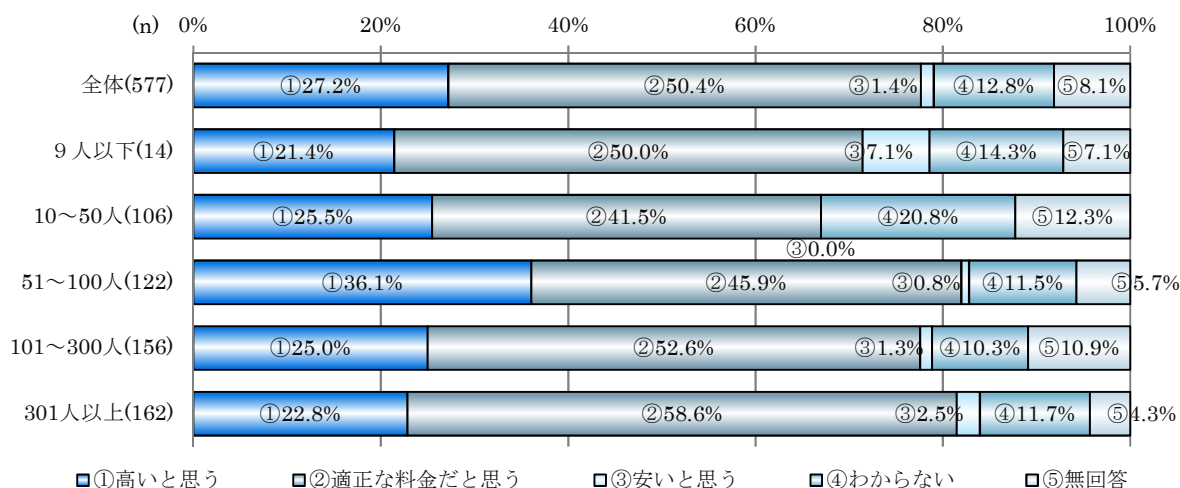
図表36 上水道料金について【単数回答】

「適正な料金だと思う」が 50.4%である。「高いと思う」は 27.2%、「安いと思う」は 1.4%となった。



図表37 上水道料金について【業種別】

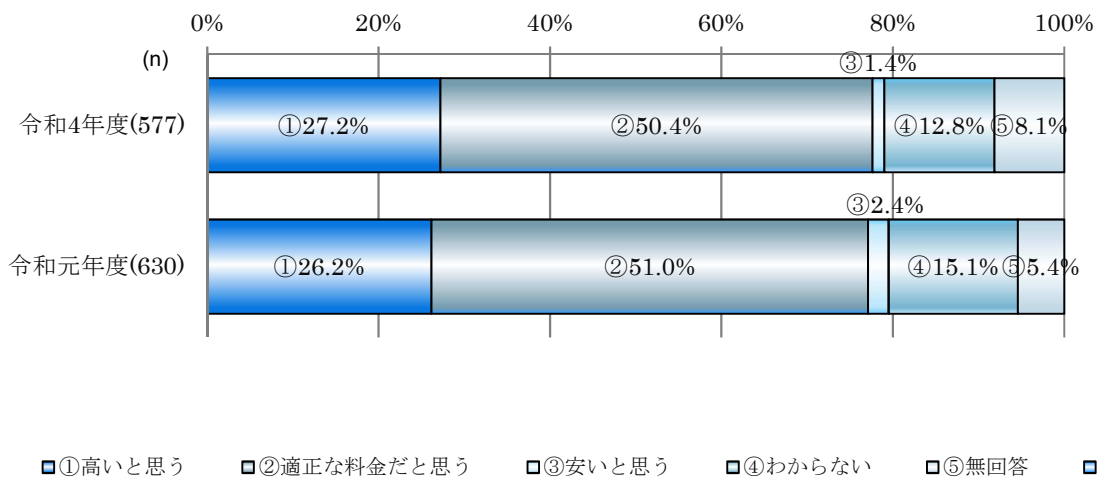
業種別にみると、「製造業」では「適正な料金だと思う」が54.2%と高い。「宿泊業」「医療、福祉」「生活関連サービス業、娯楽業」では、他の業種と比べ、「高いと思う」という意見が高くなっている。



図表38 上水道料金について【従業員数別】

従業員数別にみると、51～100人の規模の事業所では「高いと思う」の割合が36.1%と最も高い。101人以上の事業所では「適正な料金だと思う」が半数以上となっている。

② 経年比較



図表39 上水道料金について【経年比較】

「適正な料金だと思う」は、令和元年度から令和4年度で、0.6ポイント減少した。

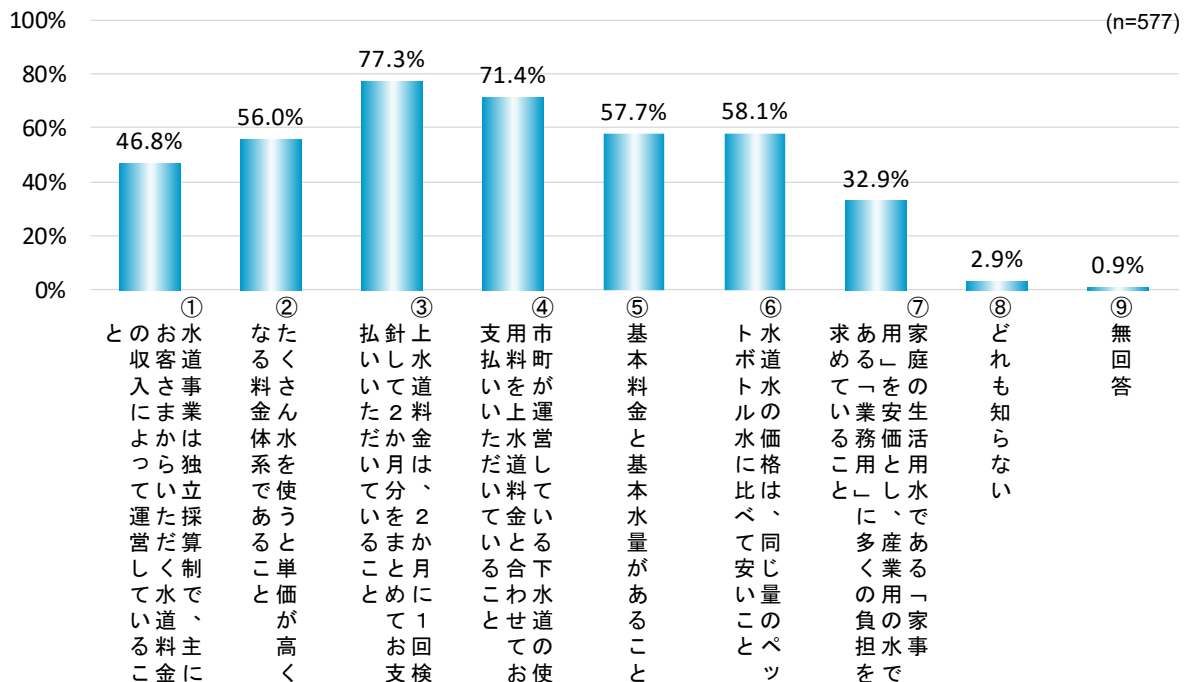
(2) 上水道料金についての知識

【問 8】 上水道料金について、あなたが知っていることはどれですか。

(いくつでも選び、○をつけてください。)

1. 水道事業は独立採算制で、主にお客さまからいただく水道料金の収入によって運営していること
2. たくさん水を使うと単価が高くなる料金体系であること
3. 上水道料金は、2か月に1回検針して2か月分をまとめてお支払いいただいていること
4. 市町が運営している下水道の使用料を上水道料金と合わせてお支払いいただいていること
5. 基本料金と基本水量があること
6. 水道水の価格は、同じ量のペットボトル水に比べて安いこと
7. 家庭の生活用水である「家事用」を安価とし、産業用の水である「業務用」に多くの負担を求めていること
8. どれも知らない

① 単純集計・属性別集計



図表40 上水道料金についての知識【単数回答】

「上水道料金は、2か月に1回検針して2か月分をまとめてお支払いいただいていること」が最も高く 77.3%の認知度となった。次いで「市町が運営している下水道の使用料を上水道料金と合わせてお支払いいただいていること」(71.4%) が拮抗している。

第2章 4 県営水道の上水道料金について  
 図表 41 上水道料金についての知識【業種別】

	水道事業は独立採算制で、主にお客さまからいただく水道料金の収入によって運営していること	たくさん水を使うと単価が高くなる料金体系であること	上水道料金は、2か月に1回検針して2か月分をまとめてお支払いいただいていること	市町が運営している下水道の使用料を上水道料金と合わせてお支払いいただいていること	基本料金と基本水量があること	水道水の価格は、同じ量のペットボトル水に比べて安いこと	家庭の生活用水である「家事用」を安価とし、産業用の水である「業務用」に多くの負担を求めていること	どれも知らない	無回答	
全体	577 100.0%	270 46.8%	323 56.0%	446 77.3%	412 71.4%	333 57.7%	335 58.1%	190 32.9%	17 2.9%	5 0.9%
製造業	179 100.0%	81 45.3%	112 62.6%	134 74.9%	131 73.2%	102 57.0%	114 63.7%	62 34.6%	5 2.8%	0 0.0%
運輸業	8 100.0%	5 62.5%	3 37.5%	4 50.0%	4 50.0%	3 37.5%	5 62.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
卸売、小売業	32 100.0%	16 50.0%	22 68.8%	25 78.1%	22 68.8%	22 68.8%	19 59.4%	12 37.5%	0 0.0%	0 0.0%
不動産業、物品賃貸業	21 100.0%	16 76.2%	12 57.1%	18 85.7%	19 90.5%	14 66.7%	11 52.4%	8 38.1%	1 4.8%	0 0.0%
飲食業	6 100.0%	3 50.0%	1 16.7%	5 83.3%	5 83.3%	2 33.3%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%
宿泊業	42 100.0%	16 38.1%	16 38.1%	32 76.2%	27 64.3%	21 50.0%	25 59.5%	13 31.0%	2 4.8%	2 4.8%
医療、福祉	137 100.0%	54 39.4%	65 47.4%	111 81.0%	86 62.8%	71 51.8%	68 49.6%	31 22.6%	5 3.6%	3 2.2%
教育、学習支援業	28 100.0%	18 64.3%	19 67.9%	22 78.6%	21 75.0%	17 60.7%	20 71.4%	13 46.4%	0 0.0%	0 0.0%
生活関連サービス業、娯楽業	30 100.0%	10 33.3%	15 50.0%	26 86.7%	25 83.3%	18 60.0%	17 56.7%	10 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
その他のサービス業	21 100.0%	9 42.9%	10 47.6%	18 85.7%	14 66.7%	14 66.7%	12 57.1%	7 33.3%	2 9.5%	0 0.0%
その他	73 100.0%	42 57.5%	48 65.8%	51 69.9%	58 79.5%	49 67.1%	41 56.2%	31 42.5%	1 1.4%	0 0.0%

図表41 上水道料金についての知識【業種別】

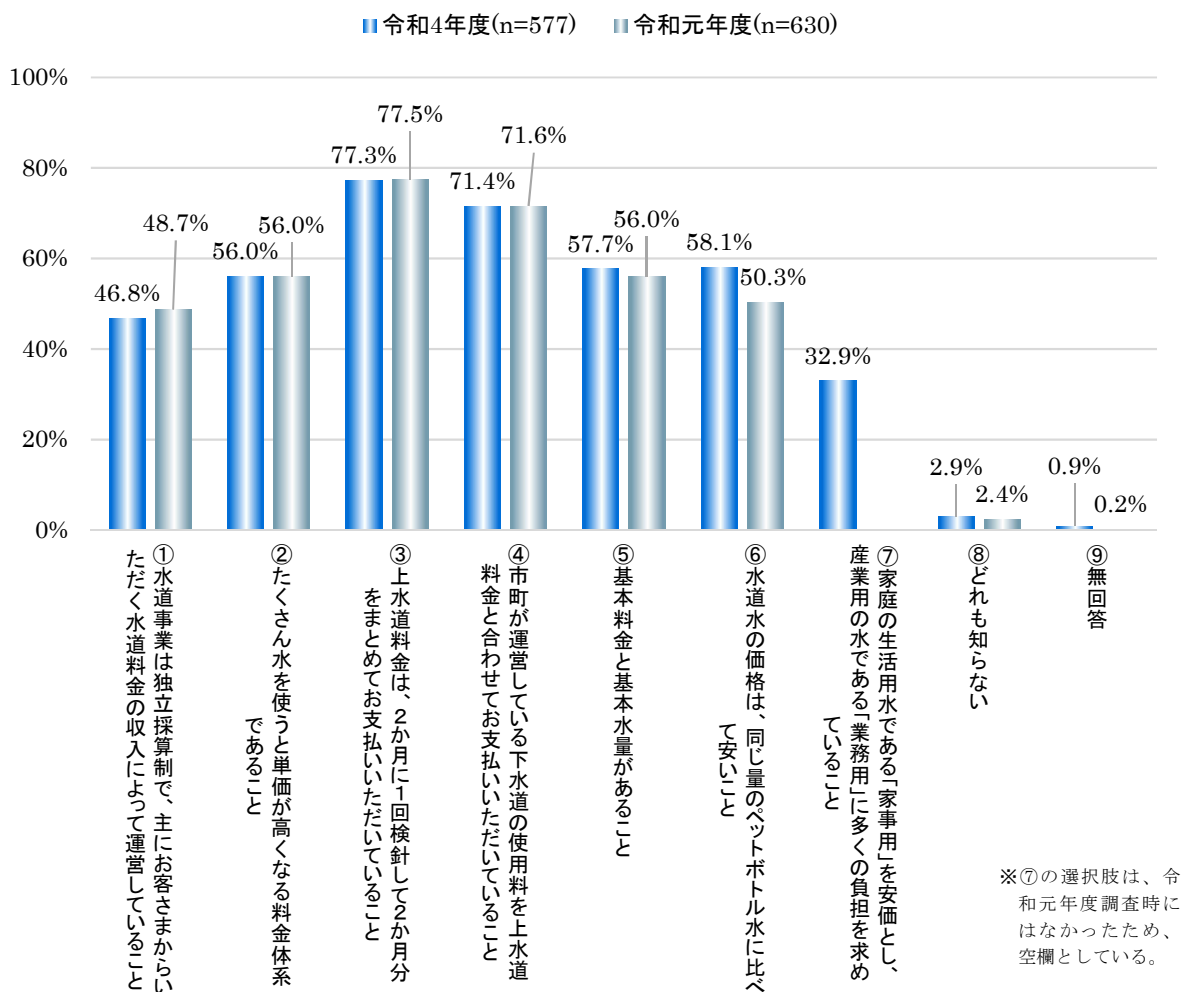
業種別にみると、「上水道料金は、2か月に1回検針して2か月分をまとめてお支払いいただいていること」は「医療、福祉」（81.0%）「生活関連サービス業、娯楽業」（86.7%）などで高い。

	水道事業は独立採算制で、主にお客さまからいただく水道料金の収入によって運営していること	たくさん水を使うと単価が高くなる料金体系であること	上水道料金は、2か月に1回検針して2か月分をまとめてお支払いいただいていること	市町が運営している下水道の使用料を上水道料金と合わせてお支払いいただいていること	基本料金と基本水量があること	水道水の価格は、同じ量のペットボトル水に比べて安いこと	家庭の生活用水である「家事用」を安価とし、産業用の水である「業務用」に多くの負担を求めていること	どれも知らない	無回答	
全体	577 100.0%	270 46.8%	323 56.0%	446 77.3%	412 71.4%	333 57.7%	335 58.1%	190 32.9%	17 2.9%	5 0.9%
9人以下	14 100.0%	8 57.1%	9 64.3%	11 78.6%	11 78.6%	8 57.1%	6 42.9%	6 42.9%	1 7.1%	0 0.0%
10～50人	106 100.0%	45 42.5%	57 53.8%	84 79.2%	76 71.7%	56 52.8%	61 57.5%	45 42.5%	4 3.8%	1 0.9%
51～100人	122 100.0%	54 44.3%	62 50.8%	97 79.5%	89 73.0%	70 57.4%	70 57.4%	40 32.8%	4 3.3%	2 1.6%
101～300人	156 100.0%	67 42.9%	84 53.8%	119 76.3%	93 59.6%	78 50.0%	88 56.4%	42 26.9%	4 2.6%	1 0.6%
301人以上	162 100.0%	84 51.9%	99 61.1%	121 74.7%	129 79.6%	111 68.5%	102 63.0%	50 30.9%	4 2.5%	0 0.0%

図表42 上水道料金についての知識【従業員数別】

従業員数別にみると、301人以上の事業所では「水道事業は独立採算制で、主にお客さまからいただく水道料金の収入によって運営していること」(51.9%)「たくさん水を使うと単価が高くなる料金体系であること」(61.1%)「基本料金と基本水量があること」(68.5%)などの認知度が高い。

② 経年比較



図表43 上水道料金についての知識【経年比較】

「基本料金と基本水量があること」は、令和元年度から令和4年度で、1.7ポイント増加した。

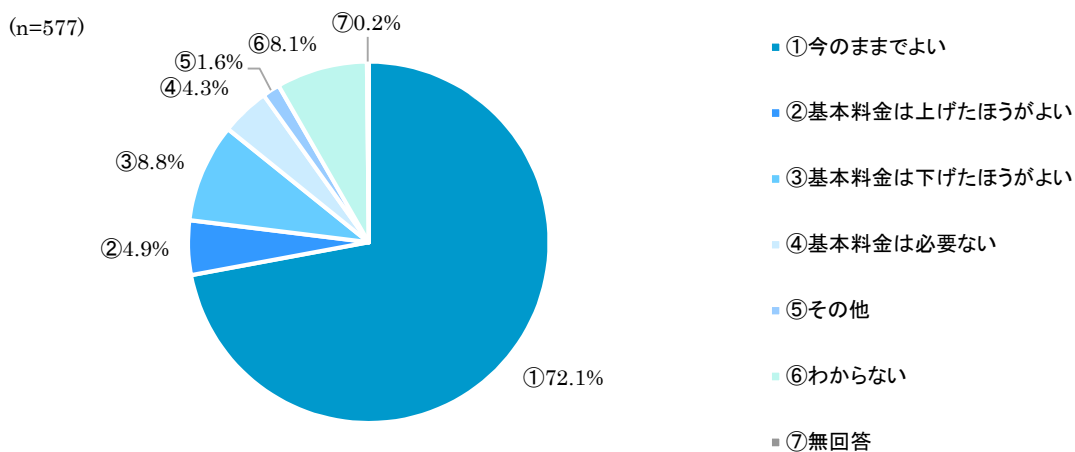


(3) 基本料金についての意識

【問 9】 基本料金についてお聞きします。県営水道では、水道をお使いいただくための必要な費用をまかなうために、使用量に関係なく基本料金として2か月分で一律1,420円(税抜き)をお支払いいただいています。この基本料金についてどう思いますか。(1つだけ選び、○をつけてください。)

1. 今のままでよい
2. 基本料金は上げたほうがよい
3. 基本料金は下げたほうがよい
4. 基本料金は必要ない
5. その他
6. わからない

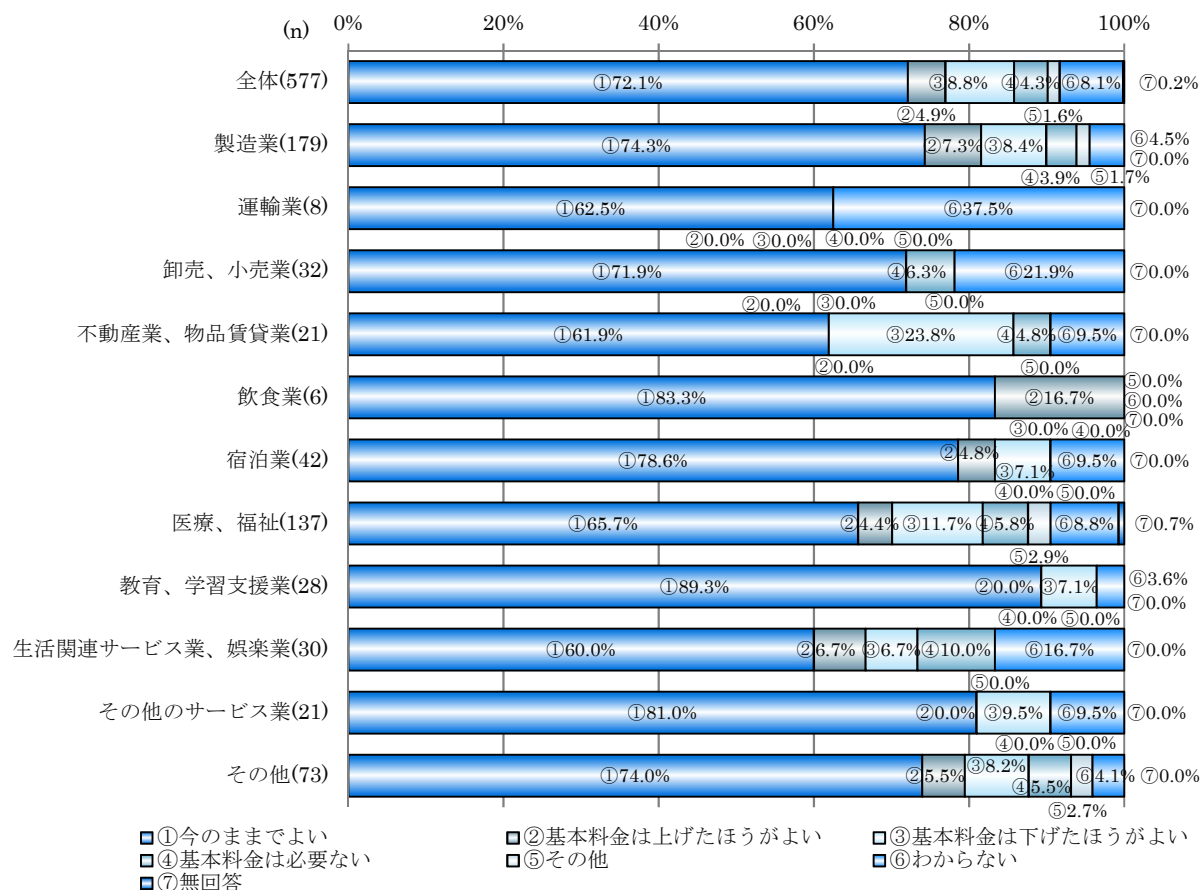
① 単純集計・属性別集計



図表44 基本料金についての意識【単数回答】

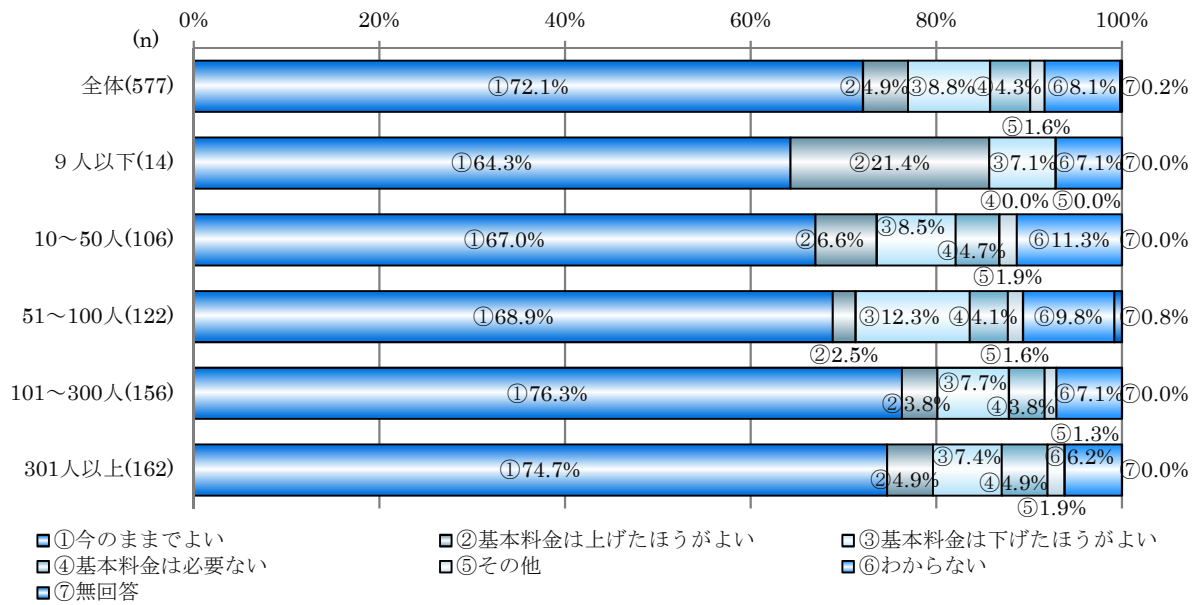
「今のままでよい」が72.1%と最も高い。「基本料金は上げたほうがよい」は4.9%、「基本料金は下げたほうがよい」は8.8%、「基本料金は必要ない」は4.3%となった。

第2章 4 県営水道の上水道料金について  
 図表 45 基本料金についての意識【業種別】



図表45 基本料金についての意識【業種別】

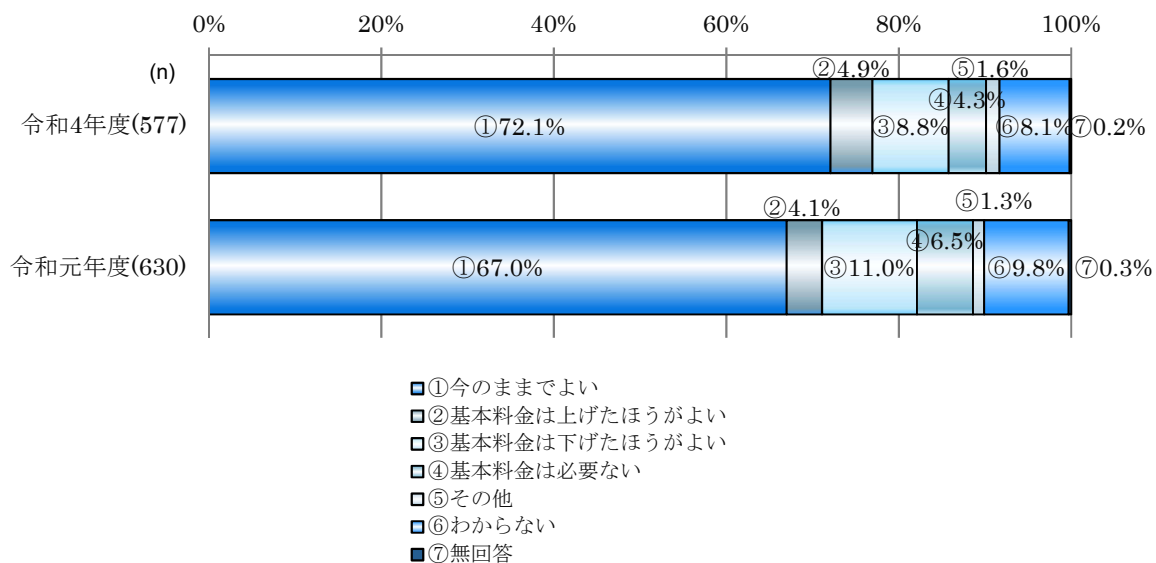
業種別にみると、「宿泊業」などで「今のままでよい」が高くなっている。



図表46 基本料金についての意識【従業員数別】

従業員数別にみると、規模が大きくなるにつれて「今のままでよい」という意見が高くなる傾向がみられる。

② 経年比較



図表47 基本料金についての意識【経年比較】

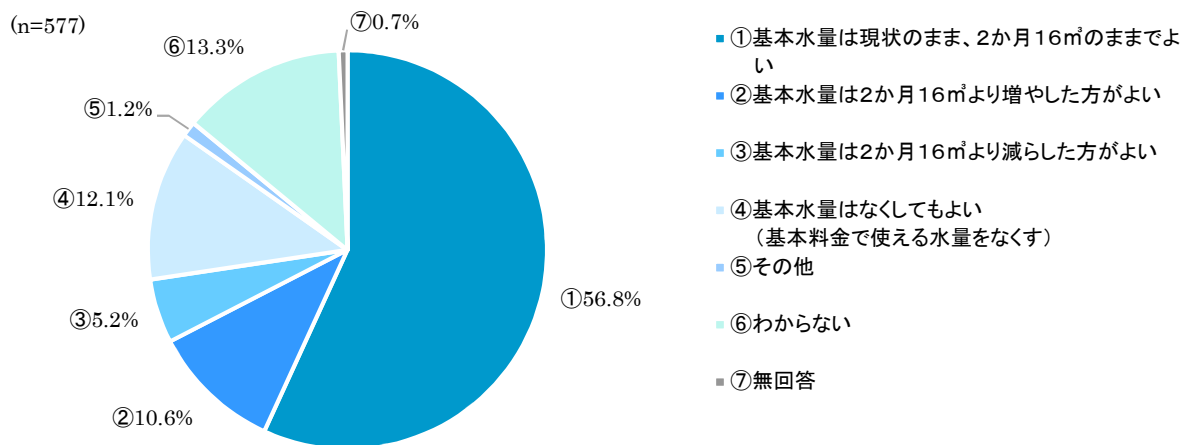
「今のままでよい」は、令和元年度と令和4年度で、5.1ポイント増加した。

(4) 基本水量についての意識

【問10】 基本水量についてお聞きします。県営水道では、水道使用量が2か月で16m<sup>3</sup>以下であれば、基本料金のみで負担で使用できます。この2か月16m<sup>3</sup>を基本水量と呼びます。基本水量についてどう思いますか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

1. 基本水量は現状のまま、2か月16m<sup>3</sup>のままでよい
2. 基本水量は2か月16m<sup>3</sup>より増やした方がよい
3. 基本水量は2か月16m<sup>3</sup>より減らした方がよい
4. 基本水量はなくしてもよい（基本料金で使える水量をなくす）
5. その他
6. わからない

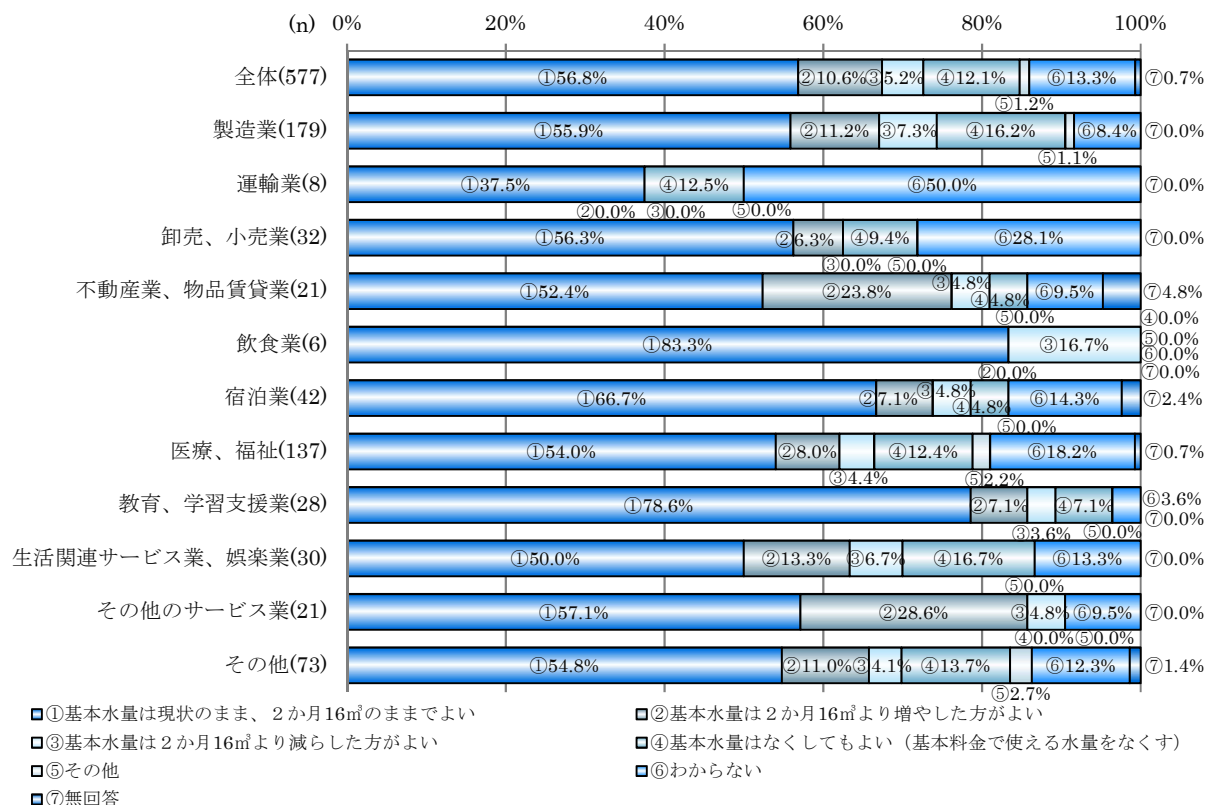
① 単純集計・属性別集計



図表48 基本水量についての意識【単数回答】

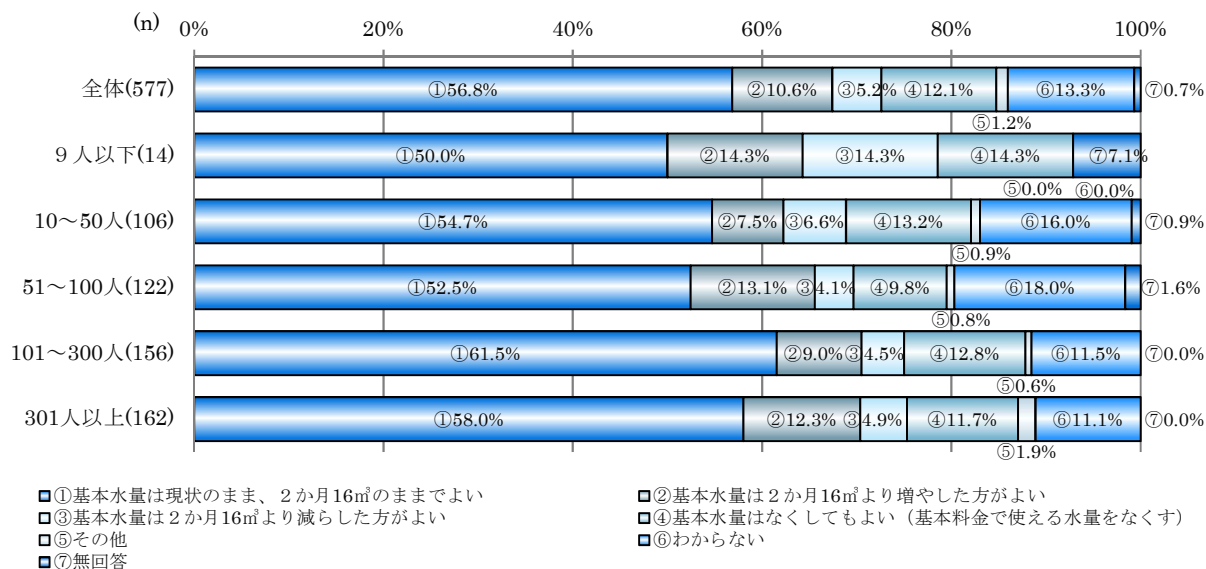
「基本水量は現状のまま、2か月16m<sup>3</sup>のままでよい」が56.8%と最も高い。「基本水量は2か月16m<sup>3</sup>より増やした方がよい」は10.6%、「基本水量は2か月16m<sup>3</sup>より減らした方がよい」は5.2%、「基本水量はなくしてもよい（基本料金で使える水量をなくす）」は12.1%となった。

第2章 4 県営水道の上水道料金について  
図表 49 基本水量についての意識【業種別】



図表49 基本水量についての意識【業種別】

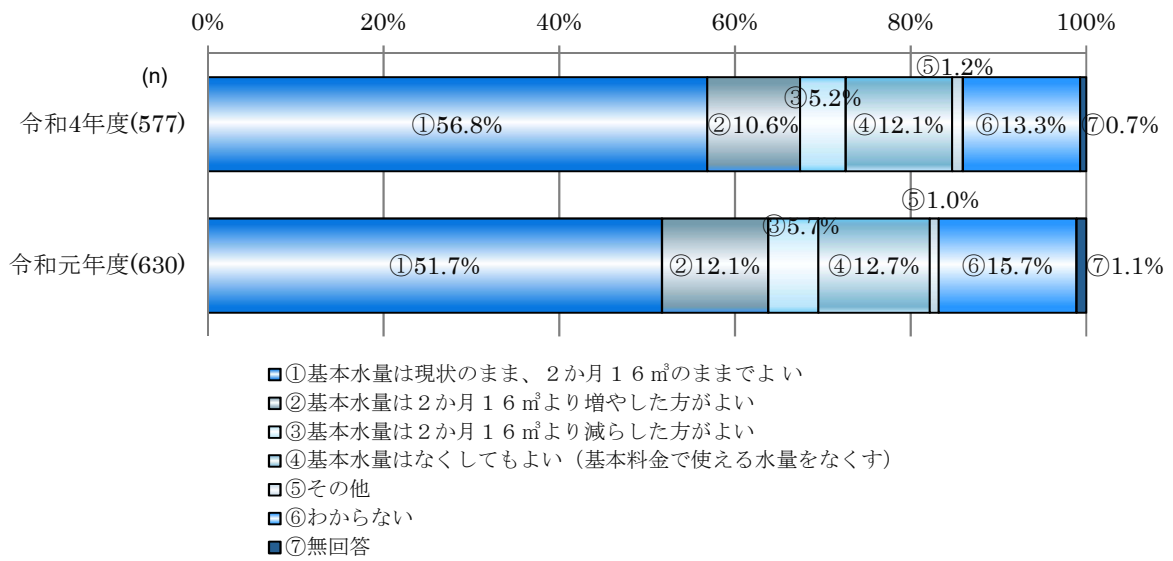
業種別にみると、「宿泊業」で「基本水量は現状のまま、2か月16㎡のままでよい」が66.7%と高い。「生活関連サービス業、娯楽業」では「基本水量は現状のまま、2か月16㎡のままでよい」は50.0%と低い。



図表50 基本水量についての意識【従業員数別】

従業員数別にみると、「101～300人」で「基本水量は現状のまま、2か月16㎡のままでよい」が61.5%と高い。

② 経年比較



図表51 基本水量についての意識【経年比較】

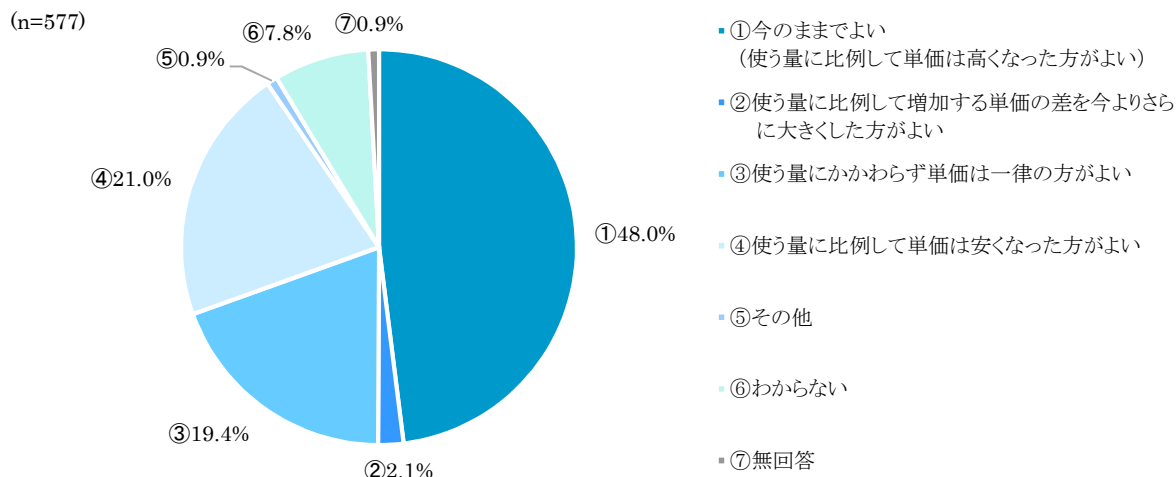
「基本水量は現状のまま、2か月16m<sup>3</sup>のままでよい」は、令和元年度から令和4年度で、5.1ポイント増加した。

(5) 従量料金についての意識

【問 1 1】 従量料金についてお聞きします。基本水量の2か月 16m<sup>3</sup>を超えると、1 m<sup>3</sup>ごとに料金（従量料金）が加算されます。また、使用する量が多くなるほど 1 m<sup>3</sup>あたりの単価が高くなります。この従量料金についてどう思いますか。（1つだけ選び、○をつけてください。）

1. 今のままでよい（使う量に比例して単価は高くなった方がよい）
2. 使う量に比例して増加する単価の差を今よりさらに大きくした方がよい
3. 使う量にかかわらず単価は一律の方がよい
4. 使う量に比例して単価は安くなった方がよい
5. その他
6. わからない

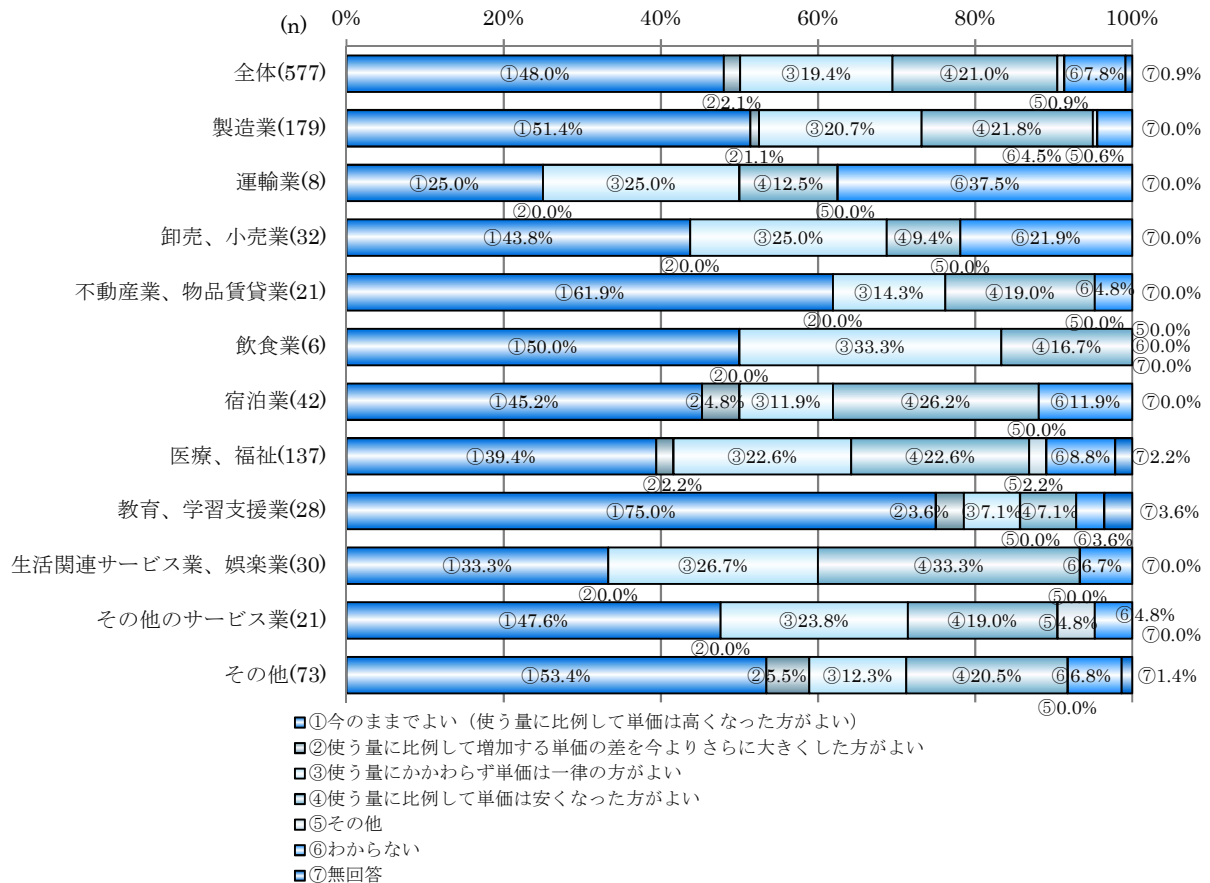
① 単純集計・属性別集計



図表52 従量料金についての意識【単数回答】

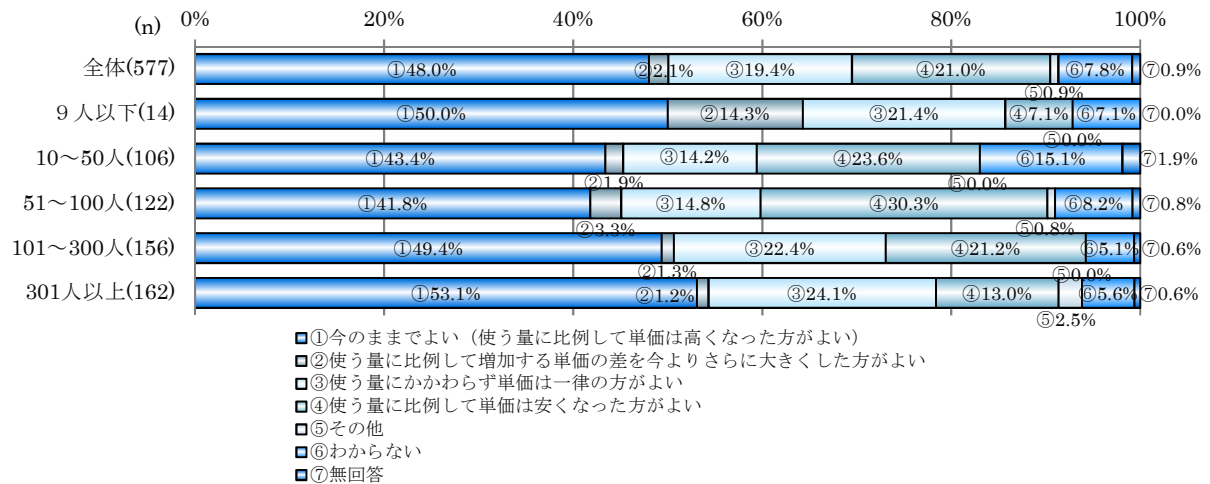
「今のままでよい（使う量に比例して単価は高くなった方がよい）」が 48.0%と最も高い。「使う量に比例して増加する単価の差を今よりさらに大きくした方がよい」は 2.1%、「使う量にかかわらず単価は一律の方がよい」は 19.4%、「使う量に比例して単価は安くなった方がよい」は 21.0%となった。





図表53 従量料金についての意識【業種別】

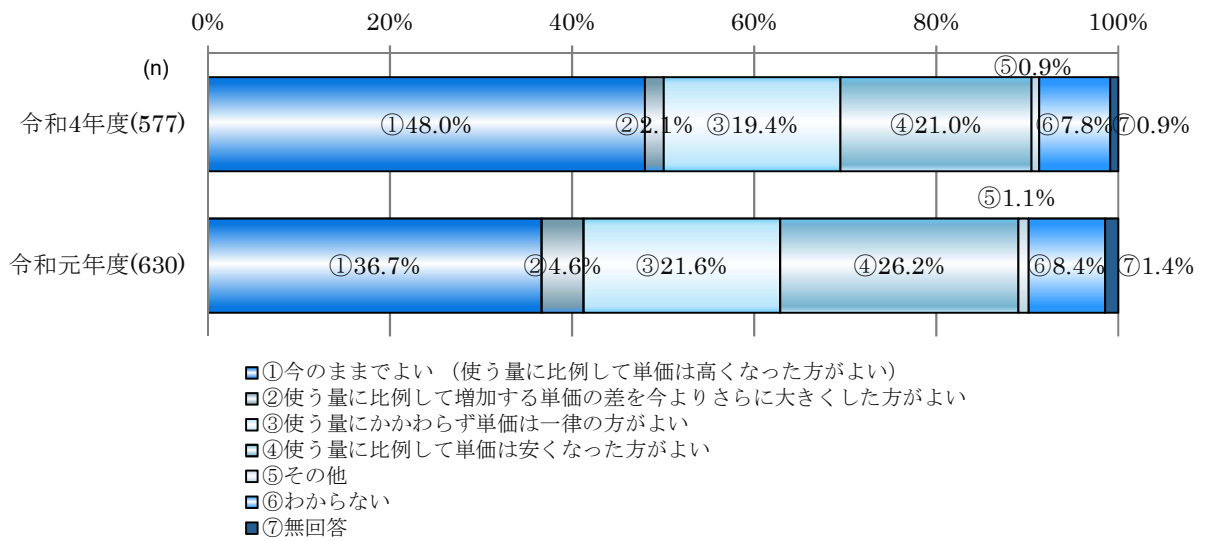
業種別にみると、「製造業」では「今のままでよい（使う量に比例して単価は高くなった方がよい）」（51.4%）が高い。「医療、福祉」「生活関連サービス業、娯楽業」では「使う量に比例して単価は安くなった方がよい」が他の業種と比べると高い。



図表54 従量料金についての意識【従業員数別】

従業員数別にみると、51人以上の規模の事業所では、規模が大きくなるにつれて「今のままでよい（使う量に比例して単価は高くなった方がよい）」「使う量にかかわらず単価は一律の方がよい」という2つの意見がともに高くなる傾向がみられる。

② 経年比較



図表55 従量料金についての意識【経年比較】

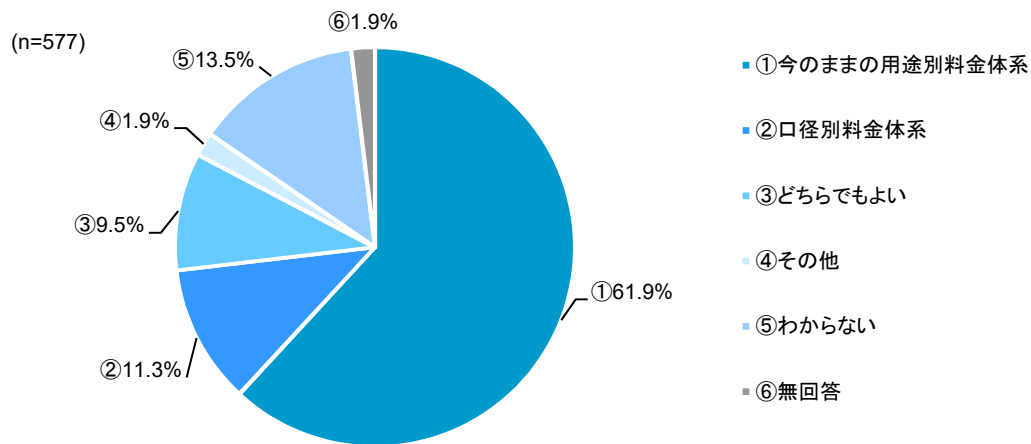
「今のままでよい（使う量に比例して単価は高くなった方がよい）」は、令和元年度から令和4年度で、11.3ポイント増加した。

(6) 料金体系のあり方

【問 1 2】 料金体系についてお聞きします。現在、神奈川県営水道事業審議会において、水の供給により受けるサービスの量と、そのサービス提供に見合う費用負担の観点から、料金体系のあり方を議論しています。料金体系について、どう考えますか。(1つだけ選び、○をつけてください。)

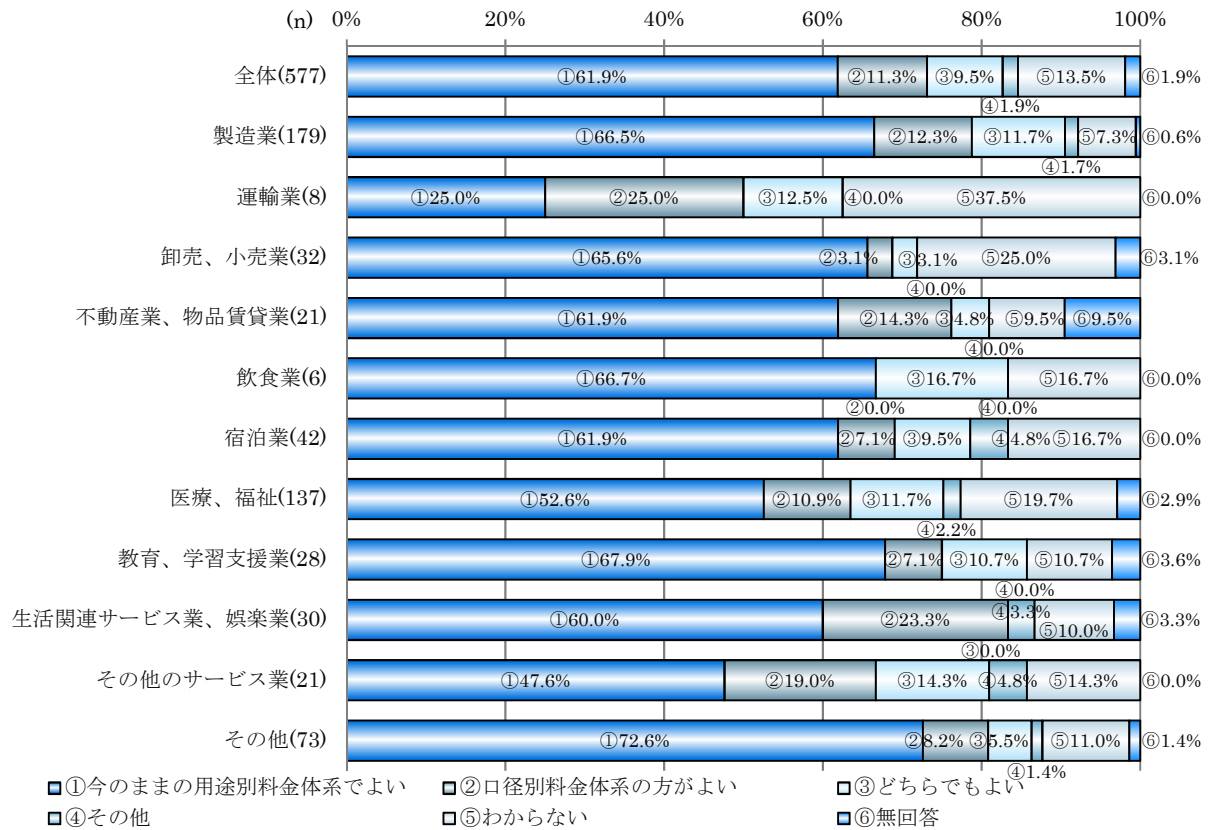
1. 今のままの用途別料金体系でよい
2. 口径別料金体系の方がよい
3. どちらでもよい
4. その他
5. わからない

① 単純集計・属性別集計



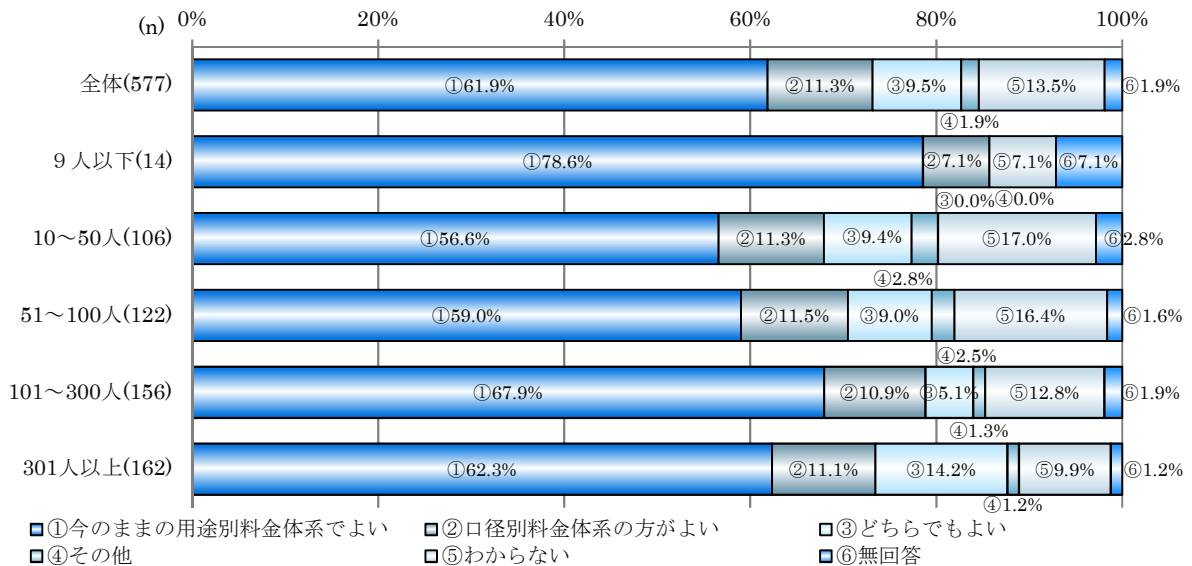
図表56 料金体系についての意識【単数回答】

「今のままの用途別料金体系でよい」が 61.9%と最も高い。次いで「口径別料金体系の方がよい」は 11.3%となった。



図表57 料金体系についての意識【業種別】

業種別にみると、「製造業」で「今のままの用途別料金体系でよい」が66.5%と高い。「生活関連サービス業、娯楽業」では「口径別料金体系の方がよい」が23.3%と比較的高い傾向がみられる。



図表58 料金体系についての意識【従業員数別】

従業員数別にみると、「101人～300人」では、「今のままの用途別料金体系でよい」が67.9%と高い。

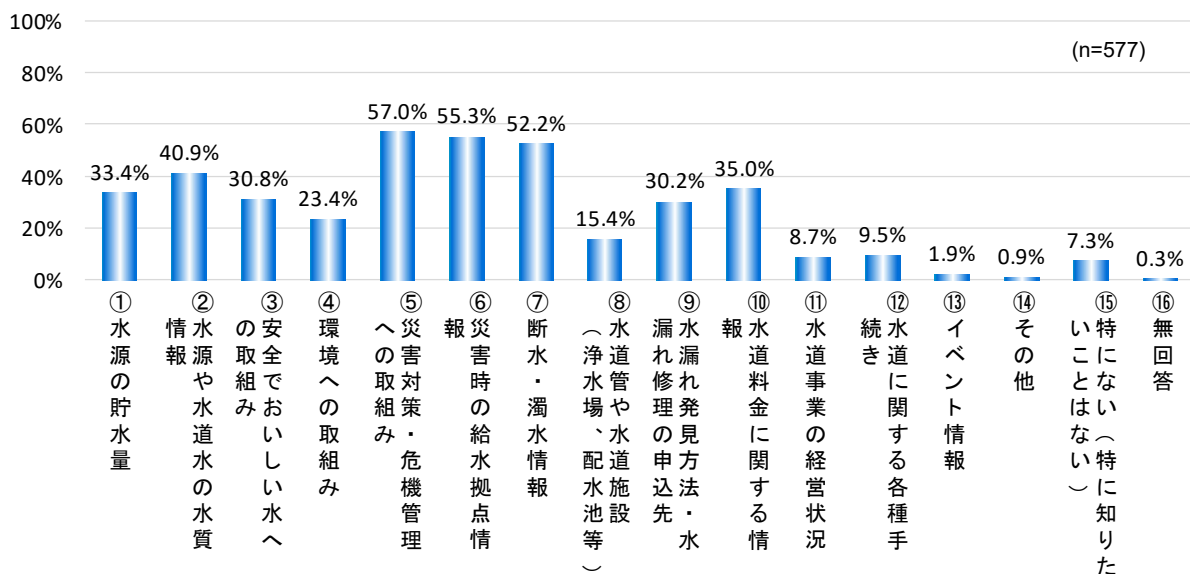
5 県営水道の広報活動等について

(1) 県営水道についての知りたい情報

【問 1 3】 あなたの事業所が県営水道に関して知りたい情報は次のどれですか。(いくつでも選び、○をつけてください。)

1. 水源の貯水量
2. 水源や水道水の水質情報
3. 安全でおいしい水への取組み
4. 環境への取組み
5. 災害対策・危機管理への取組み
6. 災害時の給水拠点情報
7. 断水・濁水情報
8. 水道管や水道施設（浄水場、配水池等）
9. 水漏れ発見方法・水漏れ修理の申込先
10. 水道料金に関する情報
11. 水道事業の経営状況
12. 水道に関する各種手続き
13. イベント情報
14. その他
15. 特にない（特に知りたいことはない）

① 単純集計・属性別集計



図表59 県営水道についての知りたい情報

全体では「災害対策・危機管理への取組み」が 57.0%と最も高く、「災害時の給水拠点情報」が 55.3%、「断水・濁水情報」が 52.2%で拮抗している。

第2章 5 県営水道の広報活動等について

図表 60 県営水道についての知りたい情報【業種別】

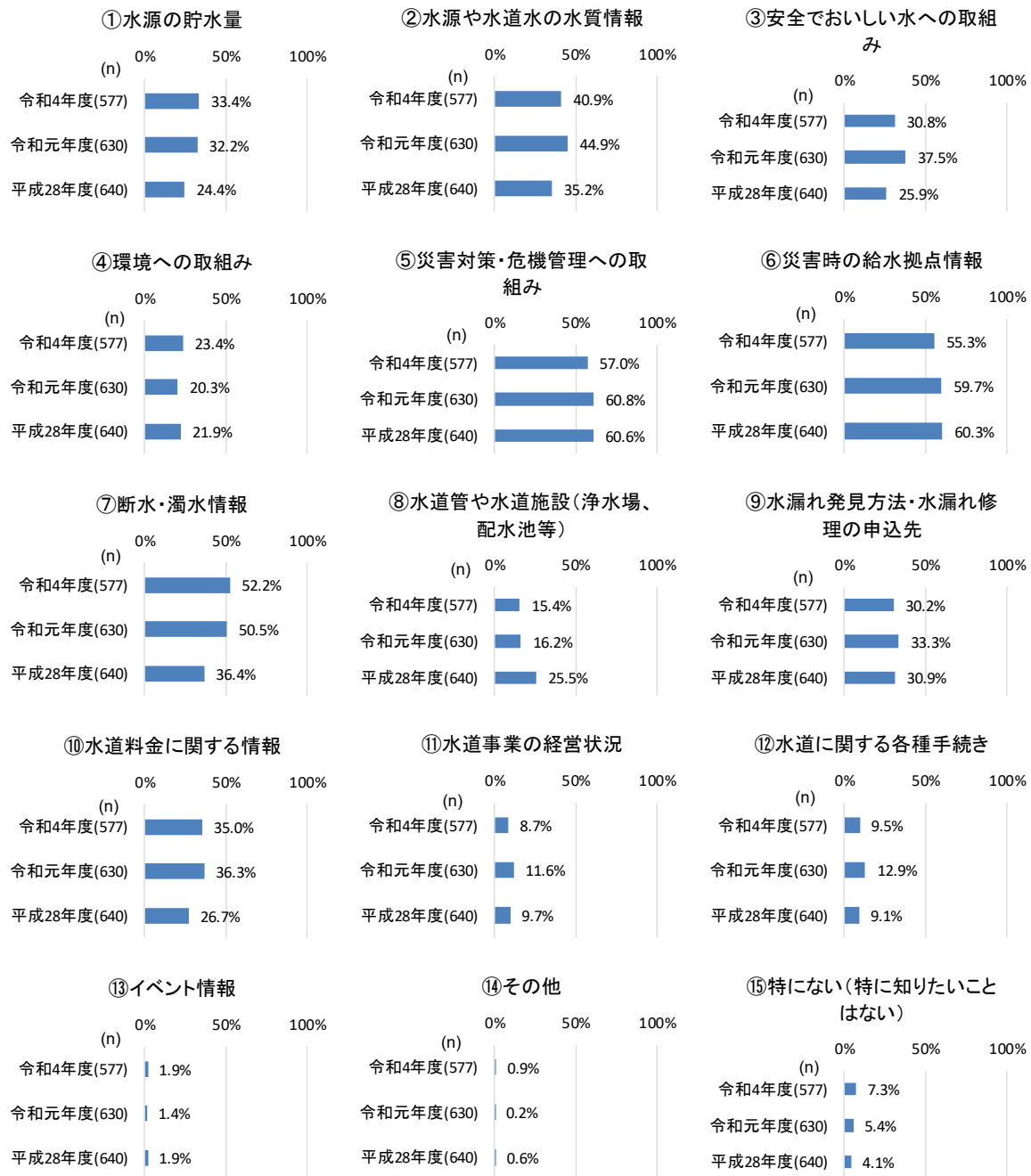
	全体	水源の貯水量	水源や水道水の水質情報	安全でおいしい水への取り組み	環境への取り組み	災害対策・危機管理への取り組み	災害時の給水拠点情報	断水・濁水情報	水道管や水道施設(浄水場、配水池等)	水漏れ発見方法・水漏れ修理の申込先	水道料金に関する情報	水道事業の経営状況	水道に関する各種手続き	イベント情報	その他	特になし(特に知りたいことはない)	無回答
全体	577 100.0%	193 33.4%	236 40.9%	178 30.8%	135 23.4%	329 57.0%	319 55.3%	301 52.2%	89 15.4%	174 30.2%	202 35.0%	50 8.7%	55 9.5%	11 1.9%	5 0.9%	42 7.3%	2 0.3%
製造業	179 100.0%	65 36.3%	87 48.6%	60 33.5%	57 31.8%	103 57.5%	90 50.3%	98 54.7%	31 17.3%	52 29.1%	57 31.8%	16 8.9%	19 10.6%	5 2.8%	2 1.1%	10 5.6%	0 0.0%
運輸業	8 100.0%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	4 50.0%	3 37.5%	5 62.5%	0 0.0%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%
卸売、小売業	32 100.0%	13 40.6%	12 37.5%	12 37.5%	10 31.3%	21 65.6%	18 56.3%	13 40.6%	4 12.5%	10 31.3%	13 40.6%	5 15.6%	1 3.1%	0 0.0%	1 3.1%	1 3.1%	0 0.0%
不動産業、物品賃貸業	21 100.0%	5 23.8%	12 57.1%	7 33.3%	5 23.8%	13 61.9%	15 71.4%	18 85.7%	6 28.6%	8 38.1%	7 33.3%	3 14.3%	3 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 9.5%	0 0.0%
飲食業	6 100.0%	1 16.7%	2 33.3%	5 83.3%	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
宿泊業	42 100.0%	14 33.3%	17 40.5%	11 26.2%	9 21.4%	20 47.6%	22 52.4%	20 47.6%	8 19.0%	12 28.6%	17 40.5%	3 7.1%	4 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	4 9.5%	0 0.0%
医療、福祉	137 100.0%	45 32.8%	49 35.8%	40 29.2%	17 12.4%	88 64.2%	86 62.8%	65 47.4%	13 9.5%	36 26.3%	39 28.5%	10 7.3%	11 8.0%	2 1.5%	2 1.5%	11 8.0%	1 0.7%
教育、学習支援業	28 100.0%	14 50.0%	12 42.9%	15 53.6%	11 39.3%	19 67.9%	17 60.7%	19 67.9%	6 21.4%	12 42.9%	16 57.1%	4 14.3%	5 17.9%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
生活関連サービス業、娯楽業	30 100.0%	11 36.7%	7 23.3%	5 16.7%	2 6.7%	12 40.0%	15 50.0%	10 33.3%	5 16.7%	8 26.7%	11 36.7%	1 3.3%	3 10.0%	1 3.3%	0 0.0%	3 10.0%	0 0.0%
その他のサービス業	21 100.0%	6 28.6%	10 47.6%	7 33.3%	7 33.3%	10 47.6%	10 47.6%	12 57.1%	4 19.0%	6 28.6%	7 33.3%	1 4.8%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	4 19.0%	0 0.0%
その他	73 100.0%	18 24.7%	27 37.0%	16 21.9%	15 20.5%	38 52.1%	40 54.8%	38 52.1%	11 15.1%	26 35.6%	31 42.5%	7 9.6%	7 9.6%	2 2.7%	0 0.0%	6 8.2%	1 1.4%

図表60 県営水道についての知りたい情報【業種別】

業種別にみると、「卸売、小売業」「医療、福祉」などで「災害対策・危機管理への取り組み」が高くなっている。

図表 61 県営水道についての知りたい情報【項目別経年比較】

② 経年比較



図表61 県営水道についての知りたい情報【項目別経年比較】

「水源の貯水量」(平成28年度24.4%→令和元年度32.2%→令和4年度33.4%)や「断水・濁水情報」(平成28年度36.4%→令和元年度50.5%→令和4年度52.2%)の割合が増加傾向となった。

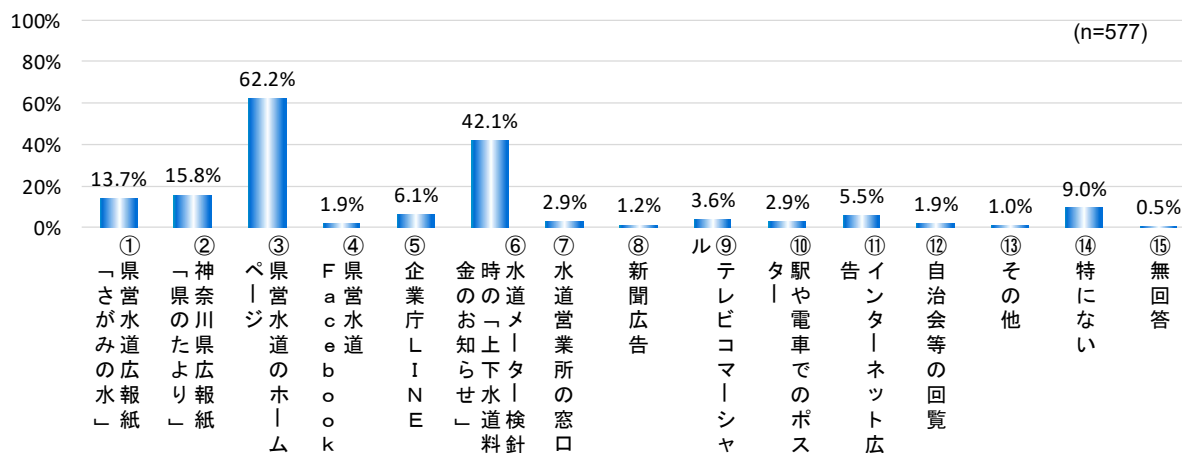
一方で、「災害時の給水拠点情報」(平成28年度60.3%→令和元年度59.7%→令和4年度55.3%)や「水道管や水道施設(浄水場、配水池等)」(平成28年度25.5%→令和元年度16.2%→令和4年度15.4%)などの割合は減少傾向となった。

(2) 県営水道に関する情報を知る手段

【問 1 4】あなたの事業所では県営水道に関する情報を何によって知りたいですか。(いくつでも選び、○をつけてください。)

1. 県営水道広報紙「さがみの水」
2. 神奈川県広報紙「県のたより」
3. 県営水道のホームページ
4. 県営水道 Facebook
5. 企業庁 LINE
6. 水道メーター検針時の「上下水道料金のお知らせ」
7. 水道営業所の窓口
8. 新聞広告
9. テレビコマーシャル
10. 駅や電車でのポスター
11. インターネット広告
12. 自治会等の回覧
13. その他
14. 特にない

① 単純集計・属性別集計



図表62 県営水道に関する情報を知る手段【業種別】

全体では「県営水道のホームページ」が 62.2%と最も高い。次いで「水道メーター検針時の「上下水道料金のお知らせ」」が 42.1%と続く。



第2章 5 県営水道の広報活動等について  
 図表 63 県営水道に関する情報を知る手段【業種別】

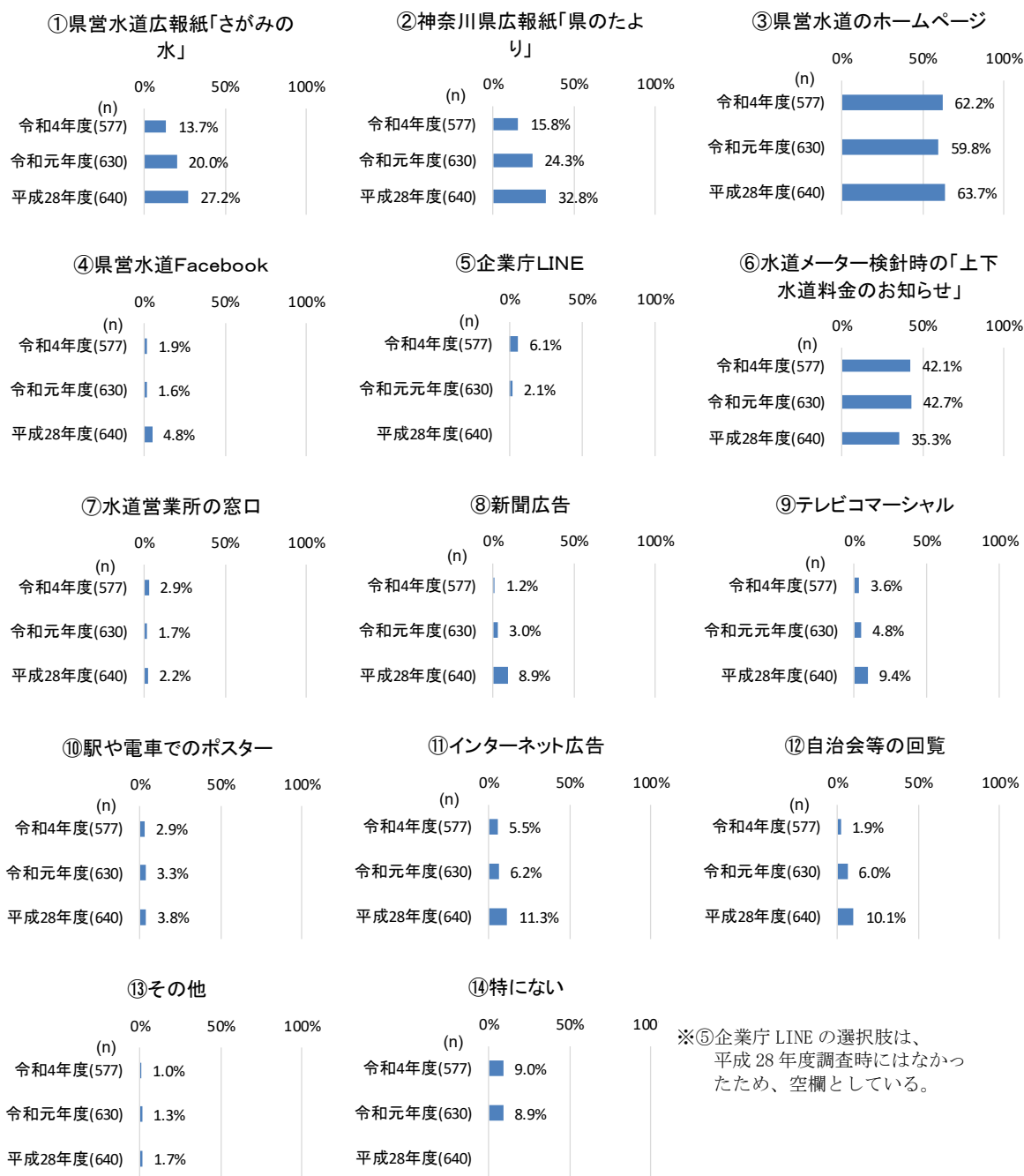
	全体	県営水道広報紙「さがみの水」	神奈川県広報紙「県のたより」	県営水道のホームページ	県営水道Facebook	企業庁LINE	水道メーター検針時の「上下水道料金のお知らせ」	水道営業所の窓口	新聞広告	テレビコマーシャル	駅や電車でのポスター	インターネット広告	自治会等の回覧	その他	特にない	無回答
全体	577 100.0%	79 13.7%	91 15.8%	359 62.2%	11 1.9%	35 6.1%	243 42.1%	17 2.9%	7 1.2%	21 3.6%	17 2.9%	32 5.5%	11 1.9%	6 1.0%	52 9.0%	3 0.5%
製造業	179 100.0%	28 15.6%	30 16.8%	125 69.8%	4 2.2%	9 5.0%	83 46.4%	8 4.5%	4 2.2%	5 2.8%	4 2.2%	8 4.5%	2 1.1%	3 1.7%	6 3.4%	1 0.6%
運輸業	8 100.0%	1 12.5%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%
卸売、小売業	32 100.0%	3 9.4%	4 12.5%	20 62.5%	2 6.3%	4 12.5%	17 53.1%	1 3.1%	0 0.0%	3 9.4%	0 0.0%	5 15.6%	0 0.0%	0 0.0%	4 12.5%	0 0.0%
不動産業、物品賃貸業	21 100.0%	3 14.3%	3 14.3%	15 71.4%	0 0.0%	2 9.5%	7 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 14.3%	3 14.3%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 9.5%	0 0.0%
飲食業	6 100.0%	0 0.0%	1 16.7%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
宿泊業	42 100.0%	5 11.9%	2 4.8%	26 61.9%	0 0.0%	2 4.8%	13 31.0%	1 2.4%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	6 14.3%	0 0.0%
医療、福祉	137 100.0%	16 11.7%	22 16.1%	74 54.0%	2 1.5%	7 5.1%	54 39.4%	3 2.2%	3 2.2%	2 1.5%	2 2.9%	15 10.9%	5 3.6%	2 1.5%	17 12.4%	1 0.7%
教育、学習支援業	28 100.0%	9 32.1%	10 35.7%	19 67.9%	0 0.0%	4 14.3%	14 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	2 7.1%	0 0.0%
生活関連サービス業、娯楽業	30 100.0%	3 10.0%	4 13.3%	18 60.0%	0 0.0%	1 3.3%	15 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%	2 6.7%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%
その他のサービス業	21 100.0%	0 0.0%	1 4.8%	14 66.7%	0 0.0%	1 4.8%	6 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	1 4.8%	0 0.0%	1 4.8%	4 19.0%	0 0.0%
その他	73 100.0%	11 15.1%	14 19.2%	41 56.2%	3 4.1%	5 6.8%	29 39.7%	3 4.1%	0 0.0%	4 5.5%	2 2.7%	1 1.4%	1 1.4%	0 0.0%	7 9.6%	1 1.4%

図表63 県営水道に関する情報を知る手段【業種別】

業種別でみると、「製造業」で「県営水道のホームページ」が69.8%と高い。また、「卸売、小売業」で「水道メーター検針時の「上下水道料金のお知らせ」は、53.1%と高い。

図表 64 県営水道に関する情報を知る手段【項目別経年比較】

② 経年比較



図表64 県営水道に関する情報を知る手段【項目別経年比較】

「県営水道広報紙「さがみの水」」(平成28年度27.2%→令和元年度20.0%→令和4年度13.7%)や「神奈川県広報紙「県のとより」」(平成28年度32.8%→令和元年度24.3%→令和4年度15.8%)などの紙媒体の割合は低下傾向となった。

一方で、「県営水道のホームページ」(平成28年度63.7%→令和元年度59.8%→令和4年度62.2%)や「企業庁LINE」(令和元年度2.1%→令和4年度6.1%)などの電子媒体の割合は増加傾向となった。



図表 66 全項目のまとめ(とても重要である+やや重要である計)【所在地別】

		全体	地震や豪雨などの災害に強い水道づくり	老朽化した水道管の更新	人口減少など大きな環境変化に対応した安定的な経営	情報通信技術(ICT)や人工知能(AI)などの新しい技術を活用した効率的な事業運営	安全でおいしい水づくり	県営水道の取組についての積極的な広報及び情報提供	水道料金を安い価格で維持している
	全体	577 100.0%	557 96.5%	557 96.5%	509 88.2%	414 71.8%	529 91.7%	333 57.7%	534 92.5%
相模原地域	相模原市中央区	50 100.0%	50 100.0%	50 100.0%	43 86.0%	36 72.0%	50 100.0%	30 60.0%	48 96.0%
	相模原市南区	40 100.0%	40 100.0%	40 100.0%	38 95.0%	28 70.0%	37 92.5%	23 57.5%	40 100.0%
	相模原市緑区	30 100.0%	28 93.3%	29 96.7%	25 83.3%	21 70.0%	28 93.3%	18 60.0%	28 93.3%
三浦横須賀地域	鎌倉市	36 100.0%	35 97.2%	34 94.4%	33 91.7%	28 77.8%	33 91.7%	25 69.4%	31 86.1%
	逗子市	3 100.0%	3 100.0%	3 100.0%	3 100.0%	3 100.0%	3 66.7%	2 0.0%	2 66.7%
	葉山町	3 100.0%	3 100.0%	3 100.0%	3 100.0%	2 66.7%	3 100.0%	2 66.7%	3 100.0%
県央地域	厚木市	63 100.0%	59 93.7%	60 95.2%	53 84.1%	41 65.1%	55 87.3%	33 52.4%	57 90.5%
	大和市	39 100.0%	34 87.2%	37 94.9%	30 76.9%	26 66.7%	33 84.6%	17 43.6%	30 76.9%
	海老名市	31 100.0%	30 96.8%	30 96.8%	27 87.1%	19 61.3%	29 93.5%	19 61.3%	30 96.8%
	綾瀬市	17 100.0%	16 94.1%	15 88.2%	14 82.4%	13 76.5%	14 82.4%	13 76.5%	15 88.2%
	愛川町	6 100.0%	6 100.0%	6 100.0%	6 100.0%	6 100.0%	6 100.0%	3 50.0%	6 100.0%
湘南地域	平塚市	71 100.0%	68 95.8%	69 97.2%	67 94.4%	49 69.0%	65 91.5%	45 63.4%	65 91.5%
	藤沢市	76 100.0%	76 100.0%	75 98.7%	71 93.4%	56 73.7%	70 92.1%	41 53.9%	72 94.7%
	茅ヶ崎市	34 100.0%	34 100.0%	32 94.1%	28 82.4%	26 76.5%	31 91.2%	19 55.9%	32 94.1%
	伊勢原市	26 100.0%	26 100.0%	25 96.2%	21 80.8%	21 80.8%	25 96.2%	16 61.5%	25 96.2%
	寒川町	17 100.0%	17 100.0%	17 100.0%	16 94.1%	12 70.6%	17 100.0%	9 52.9%	17 100.0%
	大磯町	3 100.0%	3 100.0%	3 100.0%	3 100.0%	2 66.7%	2 66.7%	2 66.7%	3 100.0%
	二宮町	1 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	1 100.0%
県西地域	小田原市	2 100.0%	2 100.0%	2 100.0%	2 100.0%	2 100.0%	2 100.0%	1 50.0%	2 100.0%
	箱根町	29 100.0%	26 89.7%	26 89.7%	25 86.2%	22 75.9%	26 89.7%	16 55.2%	27 93.1%

図表66 全項目のまとめ(とても重要である+やや重要である計)【所在地別】

所在地別に全項目の重要度(とても重要である+やや重要である計)をみると、相模原市中央区、相模原市南区で、重要度が100%となった項目が多い(7項目中3項目)。また、藤沢市、茅ヶ崎市で「地震や豪雨などの災害に強い水道づくり」の重要度が100%となった。

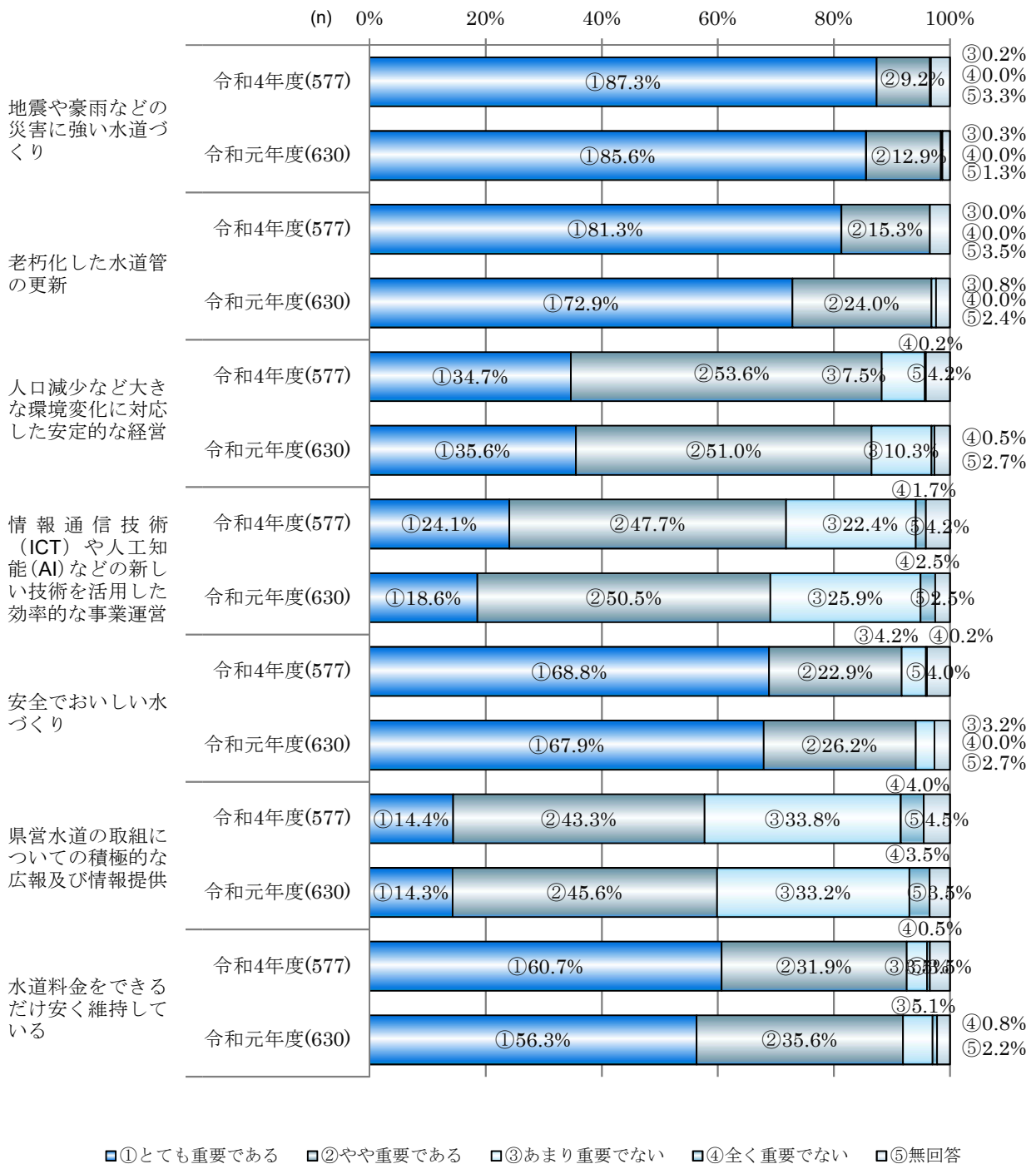
図表 67 全項目のまとめ(とても重要である+やや重要である計)【業種別】

	全体	地震や豪雨などの災害に強い水道づくり	老朽化した水道管の更新	人口減少など大きな環境変化に対応した安定的な経営	情報通信技術(ICT)や人工知能(AI)などの新しい技術を活用した効率的な事業運営	安全でおいしい水づくり	県営水道の取組についての積極的な広報及び情報提供	水道料金を安い価格で維持している
全体	577 100.0%	557 96.5%	557 96.5%	509 88.2%	414 71.8%	529 91.7%	333 57.7%	534 92.5%
製造業	179 100.0%	176 98.3%	176 98.3%	157 87.7%	126 70.4%	168 93.9%	93 52.0%	170 95.0%
運輸業	8 100.0%	8 100.0%	7 87.5%	6 75.0%	6 75.0%	6 75.0%	4 50.0%	7 87.5%
卸売、小売業	32 100.0%	30 93.8%	31 96.9%	27 84.4%	27 84.4%	28 87.5%	19 59.4%	27 84.4%
不動産業、物品賃貸業	21 100.0%	20 95.2%	20 95.2%	18 85.7%	14 66.7%	18 85.7%	15 71.4%	19 90.5%
飲食業	6 100.0%	5 83.3%	5 83.3%	5 83.3%	3 50.0%	5 83.3%	1 16.7%	5 83.3%
宿泊業	42 100.0%	38 90.5%	39 92.9%	36 85.7%	28 66.7%	38 90.5%	22 52.4%	37 88.1%
医療、福祉	137 100.0%	135 98.5%	133 97.1%	120 87.6%	95 69.3%	126 92.0%	84 61.3%	130 94.9%
教育、学習支援業	28 100.0%	27 96.4%	27 96.4%	26 92.9%	24 85.7%	25 89.3%	21 75.0%	25 89.3%
生活関連サービス業、娯楽業	30 100.0%	28 93.3%	29 96.7%	28 93.3%	21 70.0%	29 96.7%	16 53.3%	28 93.3%
その他のサービス業	21 100.0%	19 90.5%	19 90.5%	19 90.5%	16 76.2%	19 90.5%	12 57.1%	18 85.7%
その他	73 100.0%	71 97.3%	71 97.3%	67 91.8%	54 74.0%	67 91.8%	46 63.0%	68 93.2%

図表67 全項目のまとめ(とても重要である+やや重要である計)【業種別】

業種別に全項目の重要度(とても重要である+やや重要である計)をみると、「製造業」「医療、福祉」では、「地震や豪雨などの災害に強い水道づくり」「老朽化した水道管の更新」「水道料金を安い価格で維持している」などの割合が高い傾向がみられる。

② 経年比較



図表68 県営水道の事業について【経年比較】

「地震や豪雨などの災害に強い水道づくり」では、「とても重要である」の割合が、令和元年度から令和4年度で、1.7ポイント、「老朽化した水道管の更新」では、8.4ポイント増加した。

一方で、「人口減少など大きな環境変化に対応した安定的な経営」では、「とても重要である」の割合が0.9ポイント減少した。

## 6 自由意見

本調査では、神奈川県営水道事業について36件のご意見・ご要望が寄せられた。それらを以下の項目に分類し、代表的なものを抽出し掲載した。なお、1人の回答者が複数の内容について記述している場合もあり、各件数を足し上げても総件数とは一致しない。

■最後に、神奈川県営水道事業についてのご意見をご自由にお書きください。

安定供給	災害対策について	10
	老朽管更新について	2
	(小計)	12
水質・水源	安全安心	8
	(小計)	8
経営	料金や支払い	13
	事業経営	5
	(小計)	18
広報・広聴、職員対応	広報・広聴・職員対応	5
	(小計)	5
その他(感謝、励ましを含む)	感謝・励まし	7
	その他	3
	(小計)	10

## 安定供給 (12件)

- ・基幹となる事業なので安定、安心、安全でおこなってほしい。
- ・災害時の対策を急いで行っていただきたいと思います。
- ・更新計画(老朽化した水道管の)が長期化すると、応急的な修繕費がかさむので、極力短い期間で実施を希望します。

## 水質・水源 (8件)

- ・医療、介護業務には水は不可欠である。感染対策に十分な水が確保できるようにお願いします。コストアップにならぬように配慮願いたい。
- ・日ごろより安全な水のご提供ありがとうございます。人口減少問題による運営の影響はどの分野に於いても課題かと存じます。引き続き安心安全な生活の基盤を維持頂けますよう、何卒よろしくお願いします。

## 経営 (18件)

- ・水道料金請求ハガキが届いてから、納付期限までの期間が大変短いので、公官庁からの支払い処理事務が厳しい。まして納付期限日を、土、日、祝日に設定することは避けてほしい。

- ・料金も大事だが、水質や供給の安定を最優先としていただきたいです。採算重視による水道民営化は断固反対です。民営化するくらいなら、料金値上げがよいです。
- ・老朽化する設備等の維持管理を行いながら、水道料金を維持していくことの大変さ、難しくはあるものと思います。利用料金の上昇による対応だけでなく公費の充実や経営の効率化等の多面的な取組みを期待したいと思います。
- ・設備維持コストに見合った料金体系により、安全・安心の社会インフラを支えていただきたい。決してコストアップを容認という事ではありませんが…。今後も前向きな検討を応援致します。
- ・水は命に直結する大切なもの。水道事業の民営化の世界的な動きに乗じることなく、公益事業として堅持してほしい。
- ・重要なライフラインであり、会社の事業においても水はとても重要です。健全な運営、よろしくお願い致します。

#### 広報・広聴、職員対応 (5 件)

- ・水道事業の状況について E メール等の配信が出来たら良い。プッシュ式での情報提供があると周知されやすい (要ユーザー登録制度)。
- ・相互情報交換の場として、SNS やスマートフォンアプリの活用を望みますが、LINE 等民間のツールより、公共性の高いツールを導入してほしいと思います。
- ・県営水道のしくみについて、知らないことが多いことを認識したため。基本的な事をわかりやすく周知していただけると、このような調査にも適切な回答ができるのではないかと感じた。

#### その他 (感謝、励まし等) (10 件)

- ・水道事業は、非常に大切な事業だと考えます。今後も取組みがんばって下さい。
- ・お世話になっております。水道は生活を支える上で最も重要なものだと思います。自然災害やデジタル化が進む上で弊害などもあると思いますが、引き続きよろしくお願い致します。日々の業務に感謝しております。
- ・ネットでの調査にしてほしい。

※各ご意見・ご要望の記述については、文意が損なわれないよう、ほぼ原文を掲載している。